

## 和仏法律学校講義録

著者	高野 岩三郎, 鈴木 宗言, 有賀 長文, 金井 延, 梅 謙次郎
出版者	和佛法律學校
巻	2-1
ページ	1-49
発行年	1899-02-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/4666">http://hdl.handle.net/10114/4666</a>

編輯用

# 新編和漢辭典

壹號

貳回

目

破産法 (自一頁至一〇頁) 法學士 鈴木宗言

財政學 (自一頁至四頁) 法學士 有田

學 (自一頁至四頁) 法學博士 金延

録 (自一頁至六頁) 數件

占有ノ訴 (自一頁至六頁) 法學士 梅謙次郎



090  
1899  
2-41

經濟學

法學士 高野岩三郎 講述  
校友 上野政雄 編輯

緒論

第一章 經濟

第一節 欲望

凡人ハ種々ノ欲望ヲ有ス欲望トハ不足ノ感情ト之ヲ滿サント欲スル願望ト  
ヲ合セ稱スルモノナリ人ハ欲望ヲ滿スニヨリテ初メテ能ク其生活ヲ維持シ其  
幸福ヲ増進スルコトヲ得  
欲望ハ之ヲ數ヘ來レハ千種万樣枚舉ニ追アラス然レトモ之ヲ分類スレハ肉體

經濟學

一

本校革新ノ旨趣

失踪ハ宣告、夫婦財產契約ハ登記、禁治、產、準、禁治、產、破、產、法、人、其他幾種ノ公告ハ  
近今奈何ニ官報欄面ニ幅濫セルカ。一片ノ出生、屈、遺、產、相、續、ニ關スル手續ニ至  
ハ其多ハ附屬法令及行政諸規則亦皆法律の編制ヲ見ル。期年ノ後人事ノ雜、餘  
ハ更ニ之ヨリ大ナルモノアラシ。尙フルニ條約ノ實施ニヨリテ法治ノ慣習  
ニ熟セル外人ノ雜居アリ。未ダ  
シテ晏如タルヲ得ンヤ。  
夫レ法律學ハ法治國ノ要  
ル我國民ニシテ荷モ其分限ヲ  
能ヲ備ヘサルヘカラス。本校ノ茲ニ見ル所  
ヲ學クルコト數千人現在養ヲ所千有餘人。司法官ニ行政官ニ將タ民間政治家ト  
シテ社會ニ貢獻セル所敢テ鮮ナラサルヲ知ル。然リト雖モ日月ノ來去ハ人  
業ヲ埃タス。日常ノ必要ハ遂ニ吾人ヲ驅リテ更ニ數層ノ奮勵ヲ促セリ。本校革  
新ノ旨趣實ニ此ニ存ス。  
本校ハ革新ノ結果梅博士新ニ校長ノ職、實ヲ荷ヒ、校務、顧問、富井博士ト俱  
ニ銳意、戮力校務ハ刷新ヲ圖ラル。而已ナラス。法理學ニ於ケル穗積博士利法新論ニ  
於ケル古賀學士其他金井、木松崎、勝本、寺尾、富谷、前田、秋山等ノ諸博士皆是當世ノ泰  
斗ニシテ斯學ノ研鑽上學者ニ於テ毫末ノ遺憾ナカルヘシ。本校ノ期スル所一  
ニ我國法治教育ノ大業ヲ焦眉ノ間ニ於テ完フセントスルニ在リ矣。

的ノモノアリ精神のノモノアリ欲ヲ欲シ食ヲ望ミ衣ヲ思フカ如キハ肉體的欲望ニシテ智識ヲ得ント欲シ音樂ヲ聞クヲ望ムカ如キハ精神的欲望ナリ獨逸歴史學派ノ始祖ウヂルヘルム、ロッシエル氏ハ欲望ヲ分チテ自然的欲望應分の欲望及奢侈的欲望ノ三トセリ自然的欲望トハ人ノ生存上滿サ、ルヲ得サル欲望ヲ云ヒ應分の欲望トハ人ノ社會上ノ身分地位ニ相應シタル欲望ヲ云ヒ奢侈的欲望トハ身分地位不相應ノ欲望ヲ云フ然レトモ此分類タル判明精確ニ之ヲ別ツコト難ク一人ニ對シテ應分の欲望タルモノモ他ノ人ニ對シテハ奢侈的欲望トナルカ如キコト別ニ例證ヲ舉グル迄モナク諸君ノ知了スル所ナリ欲望ハ又之ヲ分チテ生存の欲望及開化的欲望ノ二トナスヲ得ヘシ生存の欲望ニハ自然限リアリ開化的欲望ハ文明ノ進歩ニ伴ヒ漸々増加シテ殆ト止マル所ヲ知ラス

人ノ有スル欲望ハ各人ノ性質智力體力男女年齡職業ニ因リ、氣候、風俗習慣ニ因リ又社會開明ノ程度等ニ因リテ頗ル其種類及範圍ヲ異ニシ且非常ニ膨脹の性質ヲ有スルモノナリ然リ而シテ欲望ノ増加其者ハ決シテ憂フヘキコトニア

ラス只欲望カ餘リ急激ニ増進シ又ハ肉體的欲望ノミ増加シテ精神的欲望之レニ伴ハス又或ハ不道德ノ欲望大ニ發達スルカ如キヲ以テ患トスルノミ欲望ハ實ニ吾人カ經濟スル所以ノ原因ニシテ欲望ヲ満足スルコト是レ吾人經濟ノ目的ナリ欲望ナケレハ經濟ナシ從ヒテ亦經濟學ナシ獨逸新派ノ經濟學者カ經濟學ヲ説クニ當リテ概テ筆ヲ欲望ニ起スモノ抑モ亦偶然ニアラスト謂フヘシ

## 第二節 貨財

凡テ欲望ヲ満足スルノ手段タルモノ之ヲ貨財ト云フ換言スレハ貨財トハ人ノ欲望ヲ滿スニ適當ナルモノヲ總稱ス

夫レ天地間ニ存在スル有形無形ノ物ニシテ吾人之ヲ見テ是レ吾人ノ欲望ヲ充スニ足ルモノナリトセハ物ハ此ニ變シテ貨財トナルナリ貨財ハ欲望ト共ニ變化シ欲望ト共ニ増減ス物ハ開闢ノ初ヨリ存在シテ變スルコトナシト雖モ其貨財タルノ性質ヲ得ルハ人カ其欲望ヲ滿スニ足ルノ効用ヲ認識シタルノ後ニアリ又一且貨財ト爲レルモノモ欲望消滅スレハ亦直チニ貨財タルノ性質ヲ失



ヲテ物ニ還ル

貨財ハ其分量ニ於テモ又其種類ニ於テモ文明ノ進歩ニ伴ヒテ増進ス蓋シ文明進歩スレハ吾人ノ欲望増加シ從ヒテ之ヲ滿スノ手段ヲ求ムルコト多キヲ加フルニ至ルノミナラス人智ノ發達ハ能ク物ノ性質ヲ究メテ之ヲ欲望ノ満足ニ利用スルコト多キヲ得レハナリサレハ高等ノ開化ニ達セル人民カ開化ノ程度尙低キ人民ニ比ヘテ多種多量ノ貨財ヲ有スルコト決シテ怪シムニ足ラサルナリ

夫レ貨財ハ人ノ内外ニ存ス是ニ於テ乎貨財ニ内外ノ別アリ

第一 内界ノ貨財ハ又之ヲ屬人的貨財ト稱シ吾人ノ内部ニ固有スルモノ例ヘハ腕力健康智識才能技術ノ如キヲ云フ例ヘハ吾人働テ衣食ノ資ヲ得ント欲セシカ此欲望ヲ満足スルモノハ吾人ノ有スル腕力智識ニアラスヤ是ヲ以テ知ルヘシ腕力智識等ヲ指シテ貨財ト稱スルノ至當ナルコトヲ

第二 外界ノ貨財トハ吾人ノ外部ニ存在スル貨財ヲ云ヒ更ニ之ヲ分チテ自由貨財及經濟的貨財ト爲ス

一 自由貨財トハ通例無量ニ存在シ之ヲ得ルニ別段勞力又ハ報酬ヲ要セサルモノヲ云フ例ヘハ空氣光線水ノ如キ是レナリ但シ時ト場合ニ因リテハ自由貨財變シテ經濟的貨財トナルコトアリ例ヘハ土地ノ如キ又木材ノ如キ古ハ自由貨財ナリシト雖モ今ハ概テ然ラス水ノ如キモ之ニ乏シキ時及場所ニ在リテハ經濟的貨財タルヲ見テ知ルヘシ

二 經濟的貨財トハ其分量ニ限リアリテ勞力又ハ報酬ヲ要スルコトナクシテ得ル能ハサルモノヲ云フ經濟學ニ於テ研究ノ目的物タルモノハ則チ此經濟的貨財ニシテ今之ヲ左ノ三種ニ細分スルコトヲ得

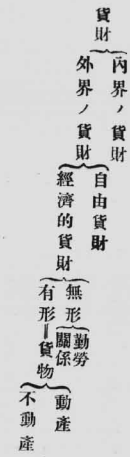
甲 貨物即チ有形ノ經濟的貨財ニシテ動產不動產ヨリ成ル是レ實ニ經濟的貨財ノ最要部分ヲ占ルモノナリト雖モ英國經濟學者カ概テ經濟的貨財ヲ單ニコノ貨物ノミニ限ルハ其當ヲ失シタルモノト謂ハサル可ラス我友法學士田島錦治君コノ說ヲ批難シテ舊派ノ學者カ往々經濟的貨財ヲ以テ唯ニ有形物ニノミ限ルハ貨財テウ語ノ通俗ノ意義ニ當レリト雖モ學理上ハ正當ニ非ス樂器カ既ニ經濟的貨財タラハ恰人ノ奏樂カ然ラサルノ理アラシヤ書籍ハ有形ナルカ故ニ經

濟の貨財タリ講義ハ無形ナルカ故ニ然ラスト言ハ、如何況ヤ書籍ノ眞價ハ其文字ニ依リテ表示セラレタル無形ナル思想ニ在ルニ於テヲヤ文字ヲ以テ之ヲ表ハセハ即チ貨財ナレトモ音聲ヲ以テ之ヲ表ハセハ即チ然ラスト言フカ如キハ豈矛盾ノ極ニアラサル乎ト言ヘルモノ頗ル肯綮ニ中レリ

乙 勤勞 一人ノ有スル内界ノ貨財ハ勤勞ノ形ニ於テ他人ニ對シテ外界ノ貨財ト爲ル 曉夫ノ勞働俳優ノ奏技教師ノ講義醫師ノ治療ノ如キ皆是等々ノ具有スル内界ノ貨財ノ外部ニ表ハレタルモノニシテ是等ノ勤勞ヲ受ル人ニ取リテハ無形ノ外界貨財タリ然リ而シテ又昔時奴隸制度ノ行ハレタルトキニ在テハ人自體ヲ以テ經濟的貨財トナシ賣買讓與ノ目的物タルコト他ノ普通一般ノ貨財ト異ナル所ナカリシカ今ハ人自體ハ貨財ニアラス唯其勤勞ノ貨財タルノミ

丙 人又ハ物ニ對スル關係 商店ノ得意版權專賣特許權商標專用權ノ如キ即チ之ニ屬シ勤勞ト同シク經濟的貨財ノ無形ナルモノナリ而シテ商店ノ得意ノ如キハ單ニ事實上ノ關係ニ止マル版權ノ如キハ法律上ノ關係ヲ爲ス

要之貨財ヲ分類スルコト左表ノ如シ



### 第三節 經濟

凡テ經濟的貨財ヲ收得シ使用スル人ノ活動之ヲ經濟的活動又ハ單ニ經濟ト云フ人ハ欲望ニ促サレ之ヲ滿サンカタメニ經濟シ經濟スルニ因リテ始メテ生活ヲ保チ幸福ヲ増進スルヲ得ルナリ

如此吾人經濟ノ目的物ハ經濟的貨財ニ在リ内界ノ貨財并ニ自由貨財ハ吾人經濟ノ目的物ニアラス然リ而シテ經濟的貨財ノ中ニハ直接ニ人ノ欲望ヲ滿足スルモノアリ例ヘハ食物衣服家屋ノ如キ是レナリ學者之ヲ稱シテ使用貨財又ハ消費貨財ト云フ又間接ニ欲望ヲ滿スモノアリ即チ直接ニ欲望ヲ滿ス所ノ貨財ヲ得ルニ用弗ラルモノニシテ例ヘハ原料器具機械工場ノ如キ是レナリ學者之ヲ呼テ收益貨財又ハ生産的貨財ト云フ然レトモ此區別ヲ誤解シテ或貨財

ハ常ニ個人ノ消費ニ供セラレ又他ノ貨財ハ常ニ收益ノ用ニ供セラル、モノト爲スコト勿レ蓋シ同一ノ經濟的貨財ナルモ其使用ノ目的ニ因リテ或ハ使用貨財ト爲リ又或ハ收益貨財ト爲レハナリ例ヘハ麵包ノ如キ麵包商若シ之ヲ取テ自己又ハ其家族ノ食料ニ供スルトキハ消費貨財ナリト雖モ其店頭ニ之ヲ露列スルトキハ收益貨財タリ又例ヘハ家屋ノ如キ所有者之ヲ其住居ニ充レハ使用貨財ナリト雖モ之ヲ工場トシテ使用スルトキハ生産的貨財ト爲ルナリ但シ或貨財例ヘハ機械ノ如キハ常ニ收益貨財トシテ使用セラルヘキモノナリトス今少レク實例ヲ取リテ經濟的活動ノ種類ヲ示サンカ農夫ノ田ヲ耕シ漁夫ノ魚ヲ捕ヘ獵師ノ鳥ヲ射リ鑛夫ノ金石ヲ探掘シ工人ノ器具ヲ製作シ商人ノ物品ヲ賣買スル等ノコトカ經濟的活動タルヤ論ナレ又教師ノ學術ヲ講シ僧侶ノ法ヲ説キ音樂家ノ樂ヲ奏スルカ如キハ一面ニ於テハ固ヨリ教育的活動宗教的活動又ハ美術的活動ナリト雖モ同時ニ是等ノ活動ヲ以テ經濟的貨財ヲ收得シ使用スルノ途ト爲ストキハ是レ亦經濟的活動ナリト謂ハサルヘカラス又政府カ人民ヨリ租稅ヲ徵收スルコトモ神社佛閣學校等カ寄附ヲ募集スルコトモ亦經濟的

活動タリ更ニ他ノ例ヲ以テ之ヲ言ヘハ竊盜カ他人ノ物品ヲ竊取シ乞食カ人ヨリ施與ヲ受ケ無賴漢カ賭博ニ勝テ賭金ヲ得放蕩漢カ借金ヲナスコトノ如キモ經濟的活動タルヲ妨ケス其他單純ニ收得シタル貨財ヲ自ラ消費スルコトノミナラス他日一層多クノ利益ヲ得ンカタメニ貨財ヲ使用シ又ハ贈與スルカ如キモ亦經濟的活動タリトス

今夫レ吾人カ經濟的貨財ヲ收得シ使用スルニ當リテヤ吾人ハ之カタメニ費ヤス所ノ勞力費用ト其結果トヲ比較シ可成的費ヤス所ヲ少ナクシテ然モ可成的得ル所ヲ多カラシメント勉ムコノ主義ヲ稱シテ特ニ經濟主義ト云フ換言スレハ經濟主義トハ吾人カ經濟スルニ當リテ通常實行ニ勉ムル所ノ最少ノ犠牲ヲ以テ最大ノ效果ヲ收メントスルノ主義ヲ云フカノ通俗ニ或行爲ヲ指シテ經濟的ナリト云ヒ又ハ不經濟ナリト云フハ畢竟コノ主義ニ合シ又ハ合セサルノ行爲ナリトノ意味ニ外ナラサルナリ而シテ又シテフレイ、ワグネル等ノ學者ハ特ニ此主義ニ從ヘル活動ノミヲ指シテ經濟的活動トナスト雖モ余ハ之ニ同意ヲ表スルヲ得ス蓋シ實際ニ於テ此主義ニ合セサル多クノ活動アリ若シ之ヲ以テ

經濟的活動ニアラストセハコレ果シテ何ナルカ此主義ニ合スルノ活動モ將テ此主義ニ合セサルノ活動モ共ニ活動其者ノ性質ニ於テハ毫モ異ナル所ナシナレハ余ハ經濟主義ニ從ヘル活動ノミヲ以テ經濟的活動ナリトナスハ不當ニ經濟的活動ノ意義ヲ狹ムルモノニシテ寧ロ經濟的活動ハ之ヲ廣ク解釋セ此主義ニ合スルト合セサルトニ論ナク凡テ之ヲ包含シ只此主義ハ吾人カ經濟スルニ際シテ通常守ラル、所ノ一大原則ナリトナスノ至當ナルヲ信ス

獨逸「デュービンゲン」大學教授「ヘーベルヒ」氏ハ經濟主義ニ付キ論シテ曰ク生産ヲシテ合理的ノ發達ヲ遂ケシムルニハ經濟主義ヨリ生スル原則即チ生産ハ經濟的タルヘシ換言スレハ生産ヲナスニ當リテハ可成の其得ル所ヲシテ費ヤス所ヨリモ多カラシムルニ勉ムヘシ且不經濟ナル生産ハ可成の之ヲ避クヘシトノ原則並ニ生産ニ關スル第二ノ原則即チ現存ノ生産諸力ハ可及的之ヲ利用スヘシトノ原則ハ絶對的ノ効力ヲ有セシムヘキモノニアラス即チ之ヲ以テ唯一ノ遵守スヘキ標準タラシム可ラス然モ世人往々コノコトヲ看過スルハ頗ル怪シムヘキコト、謂ハサル可ラス抑モ思ヘ生産ノ増進ハ斷シテ國民經濟唯一ノ

任務ニアラサルコトヲ生産ハ國民經濟最終ノ目的ニアラスシテ只國民經濟ノ道德目的ヲ達スルノ手段タルニ過ス既ニ手段ニシテ目的ニアラス然ルニ前述ノ原則ヲ他迄實行スルトキハ經濟本來ノ目的ハ却テタメニ阻止セラル、ニ至ラン手段ノタメニ目的ヲ誤マラルコレ豈智ト稱ス可ンヤ蓋シ生産諸力ノ中ニハ人モ亦之ニ屬スルヲ以テ若シ夫レ偏ヘニ生産ノ經濟的タラシムコトヲノミコレ望ミ生産費ノ減少ヲノミコレ努メ極力生産諸力ノ利用ヲノミコレ計ラハ其結果タル必スヤ人ノ努力ヲ無慈悲ニ又過度ニ使用シ勞働者全階級ヲ擧テ純然タル勞働機械タラシムルニ至ラン是故ニ前ニ述タル二個ノ原則ハ制限ヲ加フルヲ要ス即チ生産ニ際シ人ヲ使用スル場合ニ於テハ常ニ是等原則ハ勞働者ノ倫理上正當ノ要求ヲ害セス又國民經濟ノ道德目的ヲ危フセサル以上ニ限り之ヲ實行シテ可ナリト雖モ彼ヲ害シ此ヲ危フスルトキハ之ヲ實行スルコト正當ニアラサルナリト書第二版第一卷第十頁全

余ハ氏ノ說ニ賛成ノ意ヲ表スルモノナリ但シ余ハ尙之ニ附加シテ勞働者ヲ酷使ス可ラサルハ尙ニ道德上然ルヘキノミナラズ時トシテハ經濟主義其者ヨリ

考へ永久ノ利害ヨリ打算スルモ亦然カスルノ得策タルコトアリト言ント欲ス  
蓋シ可成の勞働者ノ休憩時間ヲ少ナクシ可成の長ク働カシムルコト自家ノ利  
益ナリト思考スルコト沼々近眼の實業家ノ常ナリト雖モ寧ロ相當ノ休憩ヲ與  
へ又適度ニ勞働セシムルコト其結果ニ於テ却テ勝ルモノアルハ實驗上ヨリモ  
證明セラル、事實ナレハナリ

#### 第四節 社會經濟

夫レ人ハ所謂社會の動物ニシテ自然ノ必要上社會ヲ組織シテ共同生活ヲ營ナ  
ムモノナリ從ヒテ又人ハ社會内ニ於テ相頼リ相助ケテ共ニ俱ニ經濟ス此有様  
ヲ稱シテ之ヲ社會經濟ト云フ  
然ルニ社會ハ元ト家族ニ始マリ家族ヨリ種屬トナリ遂ニ國民トナル國民ハ祖  
先ヲ同フシ言語ヲ同フシ風俗習慣道德歴史ヲ同フスルニヨリテ結合サル而  
シテ國民カ上ニ一定ノ主權者ヲ戴キ其統治ニ服從スルトキハコゝニ一ノ國家  
ヲ成ス國家ハ現時ニ於テ最高ノ組織の社會ニシテ方今ノ世界ハ恰モ數多ノ國  
家相對立シテ存在スルノ狀況ニアリ吾人ノ經濟生活モ亦此社會ノ發達ニ伴フ

ヲ益々協同ノ範圍ヲ廣メ方今ニ於テ各人ハ國家の社會ノ中ニ利害ヲ一ニシ互  
ニ相依頼シテ經濟ヲナスニ至レリ此有様ヲ稱シテ之ヲ國民經濟ト云フ然リト  
雖モ協同シテ經濟スルノ範圍ハ既ニ今日ニ在リテスラ單ニ一國內ニ止ラスシ  
テ延テ國際間ニ及ヒ又將來ノ趨勢ハ益々此國際的關係ヲシテ親密ナラシメン  
トスルノ傾向ニアリ此勢ノ究極スル所ハ全社會ヲ打テ一團トナシ其中ニ於テ  
共ニ俱ニ經濟スルニ至ルナキヲ保セス換言スレハ社會經濟方今ノ狀態ハ方ニ  
國民經濟ヨリ漸ク世界經濟ニ推移スルノ機運ニアリト謂テ敢テ不可ナカラシ  
今翻テ社會經濟實際ノ狀況ヲ觀察スレハ何ソ夫レ複雜錯綜セルヤ先ツ第一ニ  
經濟ノ主體タル人經濟者ニ自然人アリ法人アリ而シテ(一)自然人ノ經濟中ニ於  
テモ一個人カ自己一身ノ欲望ノタメニ經濟スル場合アリ個人經濟又夫婦親子  
相集マリテ家族ヲ成シ家長ノ下ニ立テ家族全體ノタメニ協同シテ經濟スル場  
合アリ(家族經濟又多數人相合シテ單純ナル團體ヲ作り共通ノ欲望ヲ滿スカタ  
メニ協同シテ經濟スル場合アリ(團體經濟)(二)法人ノ經濟中ニハ聯邦國單一ノ國  
家府縣郡市町村ヲ始メトシ學校組合宗教組合道路組合水防組合商工業者組合

並ニ各種營利會社等凡テ法人ノ資格ヲ有スル團體ノ經濟ヲ包含スル者ナリ  
次ニ經濟ノ主體タル人ニ私法上ノ人アリ又公法上ノ人即チ聯邦國單一ノ國家  
府縣部市町村其他凡テ權力強制ノ力ヲ有スルモノアリ前者ノ場合ニハ其經濟  
ヲ私經濟ト云ヒ後者ノ場合ニハ其經濟ヲ公經濟ト云フ

第三ニ經濟者ノ經濟スル目的ニ於テ主トシテ經濟上ノ私利私益ヲ目的トスル  
モノアリ又公衆一般ノ利益ヲ目的トスルモノアリ私人の經濟及公其の經濟ノ  
別是ニ於テ乎有リ私人の經濟トハ私利私益ヲ目的トシテナサル、經濟ヲ云ヒ  
公其の經濟トハ聯邦國單一ノ國家市町村等ノ政治團體カ公利公益ヲ目的トシ  
テナス經濟ヲ云フ然リ而シテ是等政治團體ノ經濟ニ於テ特色トスル所ハ其團  
體カ其固有ノ權力ノ作用ニヨリ強制的ニ人民財產ノ一部ヲ徵收シテ其收入ニ  
充ルコト是レナリ勿論是等ノ政治團體ト雖モ自己所有ノ土地森林ヲ管理シ又ハ  
自ラ事業ヲ經營スル等一私人ノ經濟ニ於ルト同様ノ方法ニヨリテ收入ヲ得ル  
コトアレトモコレ只其收入ノ一小部分ヲ成スノミ其重ナル收入ノ途ハ強制的  
ニ人民ヨリ徵收スルコトニアリサレハ是等團體ノ經濟ヲ稱シテ亦之ヲ強制的

濟ト云フ

如此社會經濟ノ狀態ハ錯雜ナリ之ヲ括言スレハ社會經濟方今ノ狀態ハ世界の  
交通ノ範圍内ニ在リテ種々ノ經濟者カ相異ナル目的ヲ以テ相異ナル方法ニ於  
テ交々相錯綜依頼シテ經濟シテ、アリト謂フヘシ

### 第五節 社會經濟發達ノ順序

凡ソ社會經濟ハ如何ナル順序階段ヲ經テ方今ノ狀態ニ發達スルモノナルヤコ  
レコ、ニ説明セントスル問題ナリ此問題ニ對シテ從來學者ノ種々解釋ヲ試ミ  
タルモノ多シ今余ハ重ナル學者ノ學說三四ヲ舉ケテ讀者ノ參考ニ供セント欲  
ス

抑モ國民アレハ亦其固有ノ歴史アリサレハ社會經濟ノ發達モ國ヲ異ニスルニ  
從フテ各自亦多少ノ差違特色ナキ能ハス然リト雖モ之ト同時ニ他ノ一方ニ於  
テ各國各時代社會經濟變遷ノ跡ヲ大觀スレハ其間亦自ラ軌ヲ一ニスル所アリ  
學者此點ヲ探テ以テ社會經濟發達ノ順序ヲ論究ス然シテ其順序ヲ區別スルニ  
或ハ貨財生產業ノ變遷ヨリレ或ハ貨財交易方法ノ變遷ヨリレ又或ハ社會經濟

組織全體ノ變遷ヨリス

一六

(第一)貨財生産業ノ變遷ヨリ觀察シテ區別シタル社會經濟發達ノ順序

獨逸保護學派中ノ錚々者タル「フリードリッヒ・リスト」氏(西曆千七百九十八年ニ生レ、千八百四十九年ニ死ス)

ハ凡テ國民カ其經濟上ノ發達ニ於テ經過スヘキ階段ヲ分テ五トナセリ。漁獵時代、牧畜時代、農業時代、農工業時代及農工商業時代即チ是レナリ。然シテ社會經濟ノ發達カ最後ノ農工商業時代ニ入ルニ及ンテコヽニ始メテ一國ノ具フル生産力普ク利用セラレ進歩ノ最高域ニ達シタルモノナリトナセリ。

夫レ諸國經濟發達ノ歷史上ニ於テ「リスト」氏ノ說ケルカ如キ漁獵時代、牧畜時代又ハ農業時代等ト名クヘキ階段アルコトハ事實明カナル所ナリ。且漁業、牧畜業又ハ農業ト云フカ如キ或一種ノ生産業カ人民ノ主タル生産業ヲナストキニ於テハ經濟上ノ現象モ亦其影響ヲ受ケ自ラ特色ヲ呈スルコトコレ亦事實疑フ可ラサル所ナリ。今少シク之ニ付テ説明ヲ與ヘンカカノ水草ヲ逐フテ轉々漂泊スルノ牧畜人民ハ之ヲ一定ノ居處ヲ占メテ耕作ニ從事スル農業人民ニ比シ其氣風其欲望其生活方法等ニ於テ異ナルモノアリ又前者ニ在リテハ土地ハ多ク共有財

産ニ屬スト雖モ後者ニ在リテハ漸ク私有財産トナルヲ見ル又雇傭ノ關係ノ如キ前者ニ在リテハ概テ存在セスト雖モ後者ニ在リテハ耕作ノ必要上此關係發生シ自由民又ハ不自由民ヲ雇使シテ常ニ耕耘ニ從事セシムルニ至ルコヽ他農業ヲ主トスル人民中ニ於テハ一家ノタメニ家内ニテ營マル、工業ノ多少發達スルモノアリ又貧富階級ノ別漸クコヽニ萌ス然リト雖モ生産ハ尙多ク單獨孤立的ニ營マル經濟者互ニ交通セテ有無相通シ長短相補フニ至ラス交易稀ニ行ハル、モ實物ト實物トヲ交換スルニ過キサルナリ。若シ夫レ社會一轉シテ市府勃興シ商工業隆起センカ社會經濟ノ狀態ハコヽニ全ク面目ヲ一新ス人ハ都市ノ内ニ於テ自由獨立ノ地位ヲ取得シ種々ノ工業ニ分レテ生産ニ從事ス生産物ハ是ニ於テ乎多種トナリ又多量トナリ人ノ欲望ノ満足セラル、コト遙カニ多キヲ加フ人ハ自己ノタメニ生産ヲ事トセスシテ他人ニ賣却スルノ目的ヲ以テ之ニ從フ交易ハ從テ盛大ニ赴キ人々ノ關係ハタメニ頗ル親密トナル運搬通信ノ機關、度量衡貨幣信用並ニ商業等凡テ交易ヲ進ムルノ制度、組織ノ是ニ至リテ初メテ發達スルコト抑モ亦偶然ニアラスト云フヘシ。

以上説明セル所ヲ以テ牧畜業農業工業ト云フカ如キ或種類ノ生産業主トシテ行ハルヽトキハ社會經濟全體ノ狀態其影響ヲ受ケテ特種ノ趣ヲ呈スルコトヲ知ルニ足ラジサレハ此點ニ據リテ以テ牧畜時代農業時代工業時代等ノ名稱ヲ設ケ區別ヲ立ルハ毫モ不可ナシ然レトモ更ニ一步ヲ進メテ「リスト氏」カ何レノ人民モ必ス先ツ漁獵時代ヨリ始メテ順次前ニ舉タル五ノ階段ヲ經テ發達スルモノナリト論スルニ至リテハ余之ニ首肯スル能ハサルナリ例ヘハ海邊魚介ニ富ムノ地方ニ住スル人民又ハ山間森林鬱蒼タル地方ニ位スル人民ニ在リテハ漁獵時代ト名クヘキモノアラン然レトモカヽル人民ニシテ昔モ今モ尙漁獵時代ニアリテ將來農業時代農工業時代等ニ進ムノ望ミナキ者吾人實際ニ於テ之ヲ見ルニアスラヤ又如何ニ歴史ニ溯リテ研究スルモ漁獵時代牧畜時代等ト名クヘキ階段ナキ人民モ存スルナリ獨逸國民ノ如キ其一例タルコト歴史家ノ論證スル所ナリ要之「リスト氏」ノ區別ハ獨逸歷史學派ノ創立者タル「クニース氏」カ初メテ之ニ適切ノ批評ヲ試ミタル以來他ノ學者モ續テ之ニ批難ヲ加ヘ方今ニ至リテハ社會經濟發達ノ順序ニ關スル學說トシテハ學者ノ間ニ重ンセラルヽ

コトナキニ至レリ

(第二) 貨財交易方法ノ變遷ヨリ觀察シテ區別シタル社會經濟發達ノ順序

貨財交易方法ノ變遷ヨリ觀察シテ社會經濟發達ノ階段ヲ區別スルトキハ分レテ實物經濟時代貨幣經濟時代及信用經濟時代ノ三トナル此區別タルヤ「ロッシェル」ハ「クニース」ノ二氏ト共ニ歷史學派ノ基ヲ開ケル獨人「ヒルデブランド氏」ノ初メテ唱ヘ出セルモノニシテ後ノ學者ノ多ク採用スル所ナリ

抑モ實物經濟時代トハ貨財ノ交易カ直接ニ物ト物トヲ交換スルニヨリテ行ハルヽ時代ヲ云フ即チ此時代ニ在リテハ我レ一ノ貨物ヲ與フレハ彼亦直チニ我レニ一ノ貨物ヲ與ヘ我レ彼レノ爲メニ一ノ勤勞ヲナセハ彼レ實物ヲ以テ我レニ酬ユルナリ方今高等ノ文明ニ達セル國民モ數百年間此時代ニ彷徨セルモノニシテ又今日ト雖モ文明國民カ尙實物經濟ノ域ヲ脱セサル未開人民ト交易ヲ行フニ當リテハ此實物直接交換方法ニヨル

實物經濟時代ニアリテハ交易盛シナルヲ得ス分業亦行ハレス然ルニ一般ニ好ム所ノ貨物ヲ取リテ之ヲ交易ノ媒介物トナシ常ニ之ニヨリテ交易ヲ實行スル



ニ至ルトキハ實物交易ニ伴フノ不便ハ爰ニ排除セラレ社會經濟ノ狀態ハ爰ニ一大變動ヲ生ス此交易ノ媒介物ハ即チ貨幣ナリ貨幣ハ法律上何人モ授受スヘキ支拂ノ用具ニレテ大取引モ小取引モ一切此助ケニヨリテ自由自在ニ舉行スルヲ得ヘシ於是乎分業得テ行フヘク生産得テ一小局部ニ限ルヘシ蓋各人ハ其生産スル所ヲ貨幣ニ代ユレハ何時ニテモ其要スル貨財ヲ取得シ得レハナリ之ヲカノ往昔各人カ自ラ種々ノ事業ニ從事シ自己ノ生産スル所ヲ以テ自己ノ欲望ヲ滿シ只其剩餘ヲ以テ直接ニ他人ノ生産物ト交換スルノ狀態ニ比スレハ其差其便實ニ霄壤モ管ナラサルノ感アリ今ヤ人ハ自己ノタメニ生産ヲ事トセス他人ニ其生産物ヲ賣却シテ貨幣ヲ取得スルカタメニ經濟ス此狀態ヲ指シテ之ヲ貨幣經濟時代ト云フ

貨幣經濟時代ニ在リテハ交易ノ容易ニ又迅速ニ行ハル、コト遙カニ實物經濟時代ニ勝レリ然レトモ此時代ハ尙所謂現金取引ノ世ニシテ我レ一ノ貨物ヲ買ヘハ直チニ其代價ヲ支拂ハサルヲ得ス彼レ或事ヲナセハ我レ直チニ之ニ對シテ報酬ヲ與ヘサル可ラス然ルニ社會ノ發達更ニ一步ヲ進ムルトキハ交易ハ現金

—

取引ノ域ヲ脱シ彼レ我レニ向テ或貨物ヲ與ヘ又或事ヲナスモ我ハ只他日之ニ對シテ報償ヲナスノ義務ヲ負擔スルニ止マルニ至ル換言スレハ我レハ未來ニ報償ヲナスコトヲ約シ彼レハ我レカ義務ヲ履行スルヲ信シテ前ニ貨財ヲ我レニ供スルナリ信用取引トハ即チ此ノ謂ナリ然リ而シテ信用取引ヲ媒介スルノ機關タル銀行ノ設ケ備ハリ信用取引ノ契約證書タル爲替手形約束手形小切手銀行手形其他ノ信用證券盛ニ行ハレ且信用取引ヨリ生スル權利ヲ保護シ義務ヲ履行スルノ法律ヨク整フニ及ヒテハ貨財ニ關スル取引ハ殆ト皆信用ニヨリテ行ハレ貨財ノ交易、貨財ノ循環ハコ、ニ頗ル活潑トナリ然モ貨幣ヲ要スルコト極メテ少ナシ社會經濟發達ノ此階段ヲ名ケテ之ヲ信用經濟時代ト云フ

(第三) 社會經濟組織ノ變遷ヨリ觀察シテ區別シタル社會經濟發達ノ順序近來ニ至リ獨逸「ライプチッヒ」大學教授「ビューヘル」氏ハ歐羅巴中央及西部地方人民間ニ於ケル經濟發達ノ順序ヲ研究シテ左ノ區別ヲ立テタリ

(一) 家内經濟時代無交易經濟時代即チ貨財カ之ヲ生産セル經濟者ノ内部ニ於テ亦消費セラル、時代

(二) 都市經濟時代得意生産又ハ直接交換時代則チ貨財カ直接ニ生産者ヨリ

消費者ニ引渡サル、時代

(三) 國民經濟時代商品生産時代貨財循環時代即チ貨財カ通例生産者ヨリ消費者ニ達スル迄ニ於テ人ヲ變ヘ所ヲ移シテ轉々循環セラル、時代

又獨逸經濟學界現時ノ泰斗タル「シュモルレル」氏ハ社會經濟發達ノ順序ヲ區別シテ(一)村落經濟時代(二)都市經濟時代(三)王侯國經濟時代(四)國家經濟時代ノ四トナセリ此區別ノ標準タル村落都市王侯國國家等ハ元トコレ社會ノ政治組織ナリト雖モ同時ニ又社會ノ經濟組織ヲ成ストノ者ニ基キ氏ハ是等ヲ探テ以テ經濟發達ノ階段ヲ區別シタルナリ

史ニ較近ニ至リ埃地利國維納大學教授「オン」氏ハ前記二氏ノ所說ヲ參酌シ別ニ一ノ區別ヲ立テタリ氏ハ社會經濟發達ノ階段ヲ分チテ(一)家內經濟時代(二)交通經濟時代トナシ更ニ交通經濟時代ヲ細分シテ(イ)地方的交通時代(ロ)都市經濟時代(ハ)國家的交通時代國民經濟ノ初期(ニ)自由交通時代發達シタル國民經濟時代又ハ資本時代ノ三トナセリ余ハ以下氏ノ所說ノ大要ヲ讀者ニ紹介

シテ此章ヲ閉ント欲ス

# 家內經濟時代

(一) 此ノ時代ニ於テハ一經濟團體カ他ト經濟上ノ交通ヲナスコトナク首長ノ下ニ協同シテ生産ニ從事シ然シテ其結果タル生産物ヲ其内部ニ於テ消費スルモノナリ換言スレハ生産ハ一家ノ爲メノ生産ニシテ消費ハ家内ニ於ル消費ナリ經濟ハカク孤立的ニ營マレ從テ貨財ノ移轉ヲ媒介スルノ貨幣ナシ必要ナル勢力ハ一部ハ家族ノ供スル所タリ又一部ハ奴隸婢僕其他ノ隸屬者ノ供スル所タリ但シ稀レニハ契約ニヨリテ勤勞ヲ呈シ其報酬トシテ衣服食料其他ノ實物手當ヲ受クル自由民ノ勢力ナキニアラス然モ未タ所謂勞動者階級ナルモノ生セス即チ別ニ賴ルヘキノ主ナク別ニ衣食スルノ財產ナク只日々相贖フテ其勢力ヲ賣リ之ニヨリテ其生活ヲ維持スルノ徒未タコレナシ

然リ而シテ獨逸人民ノ經濟史ニ付テ之ヲ言ヘハ紀元第十世紀ニ至ルマテハ此時代ニ彷徨セルモノト言テ可ナリ勿論此長日月間ニ在リテ種々經濟上ノ變動ハ生シタリキ然モ其變動タルヤ貨財ノ生産、交易、分配ノ方法ニ關スルモノニア

ラスシテ單ニ經濟者ノ種類并ニ其内部ノ組織ヲ異ニシタルニ止マル經濟者カ  
常ニ孤立的ニ經濟ヲ營ミ商業交通貨幣分業等ノ制度ノ甚シク發達セザリレ  
點ニ至リテハ終始一貫其特質トシテ變ラサル所ノモノナリカノ當初純然タル  
家族團體ヨリ血族團體トナリ更ニ村落團體ニ移リ後王侯生シタル時代ニ至リ  
テモ其經濟ハ常ニ自產自滿ノ有様ニアリタルニアラスヤ

## (二) 交通經濟時代

(イ) 地方的交通時代都市經濟時代家内經濟時代ヨリ漸ク交通經濟時代ニ移  
ル而シテ交通經濟時代ノ初期ハ都市經濟時代ナリ抑モ人々經濟上ノ交通ハ先  
ツ朝廷寺院行政官衙ノ所在地等ニ開カレタル市場ニ始マリ市場ヨリシテ都市  
與ル都市ハ獨立ノ政治團體ヲ成シ商工業者ハコノ中ニアリテ各自其業ニ從フ  
交易ハ貨幣ヲ媒介トシテ盛ニ行ハレ又不自由勞働者ニ代リテ自由勞働者現ハ  
レ契約ニヨリテ雇傭ノ關係ヲ結ビ貨錢ヲ受ケテ勞務ニ服スルモノ生ス

如此此時代ニ於テ既ニ業ニ方今ノ國民經濟時代ニ發達スルノ要素具ハレリト  
雖モ然モ尙當時交通ノ範圍ハ一小區域内ニ限ラレ都市カ其近傍數里ノ經濟交

通ノ中心トナリコノ中心ニ於テ人民互ニ相交易スルニ止マリ未タ各地方交モ  
盛ニ交通スルノ域ニ達セサルナリ

(ロ) 國家的交通時代國民經濟ノ初期封建制度漸ク頽廢シ小諸侯倒レテ君玉  
典リ頻リニ中央集權ニ努メテ漸次都市僧侶貴族等ニ屬セル權力ヲ其手中ニ收  
メコヽニ所謂近世國家ノ成立ヲ見ルニ至リテヤ社會經濟ノ狀態モ亦之ニ伴フ  
テ新時期ニ入ル歐洲第十五世紀乃至第十八世紀ノ經濟史ハ正ニ此新時期即チ  
國家的交通時代ニ屬スルモノナリ

夫レ都市經濟時代ニ在リテ都市經濟政策カ凡テ都市全體殊ニ其中ニ存セル工  
業者組合ノ利益ヲ標準トシテ案出セラレタルカ如ク此國家的交通時代ニ在リテ  
ハ一切ノ政策ハ一國ノ利益ヲ基本トシテ計圖セラル國家ハ消費者ヲシテ過度  
ノ物價騰貴ノタメニ苦シムコトナカラシメントシ生産者ヲシテ過度ノ生産ニ  
陷ラサラシメントシ又商業者ヲシテ外國ノ競争ノタメニ腦マサルハコトナカ  
ラシメントシ組合市場并ニ外國貿易ヲ規律シ總テ是等ヲ國家統馭ノ下ニ立タ  
シメタリ此政策タル名ケテ國民的經濟政策ト稱セラレ工業ハ國家ニヨリテ獎

屬保護セラレ外國貿易航海及殖民ノ事業ハ頼リニ助成セラレ道路運河ハ相續  
テ開鑿セラレ信用ニ關スル制度組織ハ大ニ振興セラレ、等凡テ經濟上一國ノ  
利益ト思惟セラル、モノニシテ國權ノ干涉ノ加ヘラレザルモノ殆トコレナシ  
如此キ國家ノ干涉政策ハ第十七八世紀ニ於テ旺盛ヲ極メ殊ニ國家組織ノ早ク  
發達シタル英吉利及佛蘭西ニ於テ尤モ完全ノ域ニ達シタリ中央集權統一制度  
ノ運タ發達シタル獨逸奧地利等ニ於テハ今世紀ニ亘リテ尙此政策行ハレタリ  
然リト雖モ此政策ヨリ生シタル結果ニ至リテハ各國異ナル所ナシ即チ人々交通  
ノ範圍共同經濟ノ區域擴張セラレタルコト是ナリ生産者ハ最早一定ノ得意又ハ  
一地方ノ需要ヲ目的トシテ生産セス商人ハ廣ク内外ノ市場ヲ見渡シテ貨財ノ販  
賣ニ從ヒ古來ノ市場并ニ物價ニ關スル法律規定ハ廢止若クハ改正セラレ中世行  
ハレタル組合ハ其勢力ヲ失ヒ職工ハ別ニ社會上一ノ階級ヲ成シ貨幣取引ハ益擴  
張セラレコ、ニカクシテ一國內ニ於テ一國民ノ作ル所ノ社會經濟ノ狀態ヲ生ス  
(ハ) 自由交通時代發達セタル國民經濟時代又ハ資本時代商業ノ發達技術ノ進  
歩人口ノ増加及ヒ之ニ伴フテ生シタル人々經濟的生活ノ複雜并ニ人民權力ノ自

覺ハ從來自由交通ノ上ニ加ヘタル種々ノ規律制限ヲ以テ却テ經濟ノ發達ヲ害  
スルモノト見做スニ至リ是ニ於テ歐洲各國殊ニ先ツ英佛兩國ニ於テ國家ノ干  
渉ハ成ルヘク之ヲ狹隘ノ範圍ニ止メ經濟上ノコトハ自由ニ放任スルヲ以テ原  
則トナシ財產ノ自由營業ノ自由雇傭契約ノ自由等所謂經濟的自由制度採用セ  
ラル、ニ至レリ如此ク一方ニ於テ自由制限ノ撤去行ハル、ト同時ニ他ノ一方  
ニ於テ更ニ三事情ノ大ニ經濟的發達ヲ促スモノ發現セリ其一ハ即チ運搬通信  
機關ノ非常ナル進步ナリ其二ハ即チ生産ノ分量及性質ノ上ニ起リタル大變化  
ニシテコレ重ニ蒸氣力電氣力ノ應用ニヨリテ機械ノ發達著シキモノアリシニ  
因ル其三ハ即チ市場制度并ニ貨幣及信用制度大ニ改良セラレ經濟的交通完備  
ノ域ニ達シタルコトニシテ重要ナル貨財ニ對シテハ各特別ノ取引所設ケラレ  
需要供給ノ平均ヲ計リ貨幣及信用制度發達シテ巨額ノ取引遠方ヘノ支拂モ容  
易ニ決行スルヲ得セシメタリ以上ノ三大進歩タルヤ實ニ方今人々ノ經濟的活  
動ヲシテ一國ノ區域ヲ越テ國際的關係ヲ生セシメ社會經濟ヲシテ所謂世界經  
濟ノ趣ヲ呈スルニ至ヌシメタル原因ナリトス固ヨリ方今英國ヲ除キ其他ノ諸

國ニ於テハ尙關稅ノ制限ニヨリテ互ニ相離隔スト雖モ然モ世界交通ハ日々盛ニ行ハレ又將來益々盛ナラントスルノ趨勢ニアリトス

如此經濟的自由制度ハ公認セラレ之ニ加フルニ前記三大進歩ヲ以テス人々交モ相競争シテ只管經濟上ノ利益ヲ得ント努ムルモノ抑モ亦當然ノ結果ト謂フ可シ然リ而シテ此競争場裡ニ在リテ勝敗ハ一ニ資本所有ノ有無ニヨリテ決セラル資本ナケレハ到底一事業ト雖モ成功ヲ得ルコト難シカクシテ資本ハ生産ノ最大要素トナリ生産ノ種類範圍一ニ之ニヨリテ決定セラレ勞動者ノ運命一ニ之ニヨリテ左右セラル是ニ於テ乎人方今ノ經濟社會ヲ指シテ亦之ヲ資本時代ト稱ス

## 第二章 經濟學

### 第一節 經濟學ノ定義

經濟學研究ノ目的物ハ社會經濟ニアリ換言スレハ人ガ社會ノ内ニ於テ相類リ相助ケテ經濟スルノ有様ニアリサレハ一般ニ經濟學ヲ定義スルトキハ經濟學ハ社會經濟ヲ研究スルノ學問ナリト謂テ可ナリ

(註) 既ニ如此經濟學ハ社會經濟ノ狀態ヲ研究スル者ナリトセハ單ニ經濟學ト云フヨリモ社會經濟學ト云フヲ以テ至當トナサル可ラス然レトモ今暫クテ世間普通ノ用例ニ從ヒ經濟學ナル語ヲ用非別ニ此新文字ヲ用ユルヲ避ク然ルニ前章第四節ニ於テ述タルカ如ク社會經濟ハ今ヤ既ニ國民經濟時代ニ入リ更ニ進テ世界經濟時代ニ移ラントスルノ時ニアリフオン、フアリボウ、ヒ氏ノ所謂發達シタル國民經濟時代又ハ自由交通時代即チ是レナリ既ニ社會經濟ニシテ發達ノ此階段ニ達シタリトセハ經濟學ハ亦此階段ニ於ル社會經濟ヲ取テ研究セサル可ラス多數ノ獨乙經濟學者カ單ニ經濟學(Virtschaftslehre)ト言ハスシテ特ニ國民經濟學(Volkswirtschaftslehre)又ハ(Nationalökonomie)ナル名稱ヲ用ユル者其理由實ニコ、ニ在リ而シテ又是ヲ以テ知ルヘシ經濟學カ終始固定ノ靜止的學問ニアラスシテ世ト共ニ推移變遷スル進歩的ノ學問ナルコトヲ

上來論シタル所ニヨリ余ハ經濟學ヲ定義シテ下ノ如ク言ント欲ス

經濟學ハ社會經濟方今ノ狀態換言スレハ方學ノ社會ニ於ル人ノ經濟ニ關シ其原理及方策ヲ講究スル學問ナリ

余ハ以下少シク此定義ヲ分拆解明シテ以テ其特色ヲ明ラカナラシメントス

(第一) 先ツ濟經學ハ人ノ經濟ニ關スル學問ナリ然シテ人トハ一種々欲望ヲ有シ之ヲ滿サンカ爲メニ經濟スルノ人ナリト營ニ利己心ニヨリテ動カサルハノミナラス又利他心ニヨリテ支配セラルハノ人ナリト又自然人タルト法人タルトヲ同ハス私法上ノ人タルト公法上ノ人タルトニ論ナク一切ノ人格ヲ有スル者ヲ包含スル者ナリ

然ルニ從來英國經濟學者ハ(例ヘハ「フオーセツト」シヅウタ)多ク經濟學ヲ定義シテ富貨財ノ生産、交易、分配ニ關スル學問ナリトナシ重キヲ貨財ニ置キ人ヲ第二位ニ置ケリコレ獨逸新學派ノ大ニ反對ヲ表スルノ點ニシテ余モ亦飽ク迄人ヲ主トナシ貨財ヲ客トナスコトヲ主張スル者ナリ蓋シ人ハ貨財ノタメニ存セス否貨財ハ却テ人ノタメニ存スル者ナリ人ハ其有スル欲望ニ促サレ之ヲ滿サンカタメニ經濟ス人ハ經濟ノ主體ニシテ貨財ハ人ノ欲望ヲ滿スノ手段ニ過キサレハリ況ヤ彼ハ貨財ニ重キヲ置キ我ハ人ニ重キヲ置キ常ニ思想ノ基本ヲ異ニスルノ結果經濟上守ルヘキ原則採ルヘキ方針ヲ論スルニ當リテ彼我ノ間大ニ

ヲ生スル者アルニ於テヲヤ

又然ルニ「リカード」氏其他所謂英國抽象學派ノ學者ハ人カ經濟スルニ當リテハ單ニ利己心ノミニヨリテ支配セラルハモノトナシ又ハ利己心ノミニヨリテ支配セラルハ者ト見做シ之ヨリ生スル現象ヲ論スルヲ以テ經濟學ノ職分ナリトセリ余ハ又之ニ反對シテ獨逸新學派ノ學說ニ贊ス經濟學ニ於テ取扱フ所ノ人ハ如此キ實際殆ト在リ得可ラサル抽象的假想的ノ人間ニアラス體力智力、德力ヲ具ヘ利己心ニ動カサルハト共ニ道德習慣等ニ支配セラルハノ實在の人間ニアリト又然ルニ往々經濟學ヲ以テ單ニ私人力平等ノ關係ニ於テ經濟スルノ有様ヲ攻究スル者トナシ國家其他ノ公共團體ノ經濟ヲ論スル財政學ヲ以テ經濟學ト相對立セシムル者アリ余ハ如此ク財政學ヲ經濟學ヨリ分離スルコトナク經濟學ハ凡テ人格ヲ有スル者ノ經濟ヲ論スル者ナリトナス

(第二) 經濟學ハ社會ニ於ル人ノ經濟ニ關スル學問ナリ

經濟學ハ社會ヲ前提ス經濟學ハ人ノ經濟ニ付テ研究スル者ナリト雖モ其人ナル者ハ個人トシテノ人ニアラス社會ノ一部ヲ成ス者トシテノ人ナリ夫レ舊派ノ

經濟學者ハ個人主義ナリ彼等ハ即チ個人ヲ見ルノミ社會ト言ヘハ單純ニ機械的ニ人ノ集合シタル者ト思惟ス新派ノ經濟學者ハ社會主義ナリ此ニ社會主義トハカノ社會黨ノ主唱スル極端ノ主義ノ謂ニアラス社會ヲ以テ一ノ有機的團體トナシ人ヲ目スルニハ此社會ヲ組織スル分子タルノ點ヨリレ常ニ重キヲ社會ニ置クノ主義ヲ指ス即チ英語ニ所謂 (the social principle) ニアラスシテ (the individual principle) ナリ又夫レ舊派ノ學者ハ放任主義ナリ彼等ハ各人ノ私利私益ハ常ニ同時ニ社會ノ公利公益タリトナシ而シテ自己ノ利益ヲ知ル者ハ自己ニ如カストノ理由ヨリ各人ヲシテ其爲ス所ノ儘ニ任セシムルハ即チ自ラ全體ノ調和ヲ來ス所以ナリトシ絶對的自由放任ヲ以テ其理想トナス新派ノ學者ハ制限的自由主義ナリ彼等ハ各人ノ私益ハ常ニ必スシモ全體ノ公益ト相一致スル者ニアラス若シ兩者相衝突セハ私益ハ勝ヲ公益ノ前ニ屈セサル可ラス自由放任可ナリ然モ絶對的ナル可ラス公益ヨリ見テ必要ナル制限ハ之ヲ設ケサルヲ得スト唱フ是等新舊二學派ノ異ナル所ハ猶ホ後ニ詳説スヘシ余ハ亦舊派ノ學說ヲ排シテ新派ノ學說ニ與スル者經濟學ヲ定義シテ社會ニ於ル人ノ經濟ニ關スル學問

## 破産法

法學士 鈴木宗言 講述  
校 友 竹内喜一郎 編輯

## 緒言

破産法ハ漸ク近世紀ニ至リ歐米諸國皆明文ヲ以テ之ヲ規定スルニ至リシト雖モ近世紀以前ニ於テハ破産法ノ存スル國絶エテナク皆通常一般ノ救済法ニ一任セシモノナリ蓋シ破産法ハ社會ノ程度發達シ農業工業商業ノ進歩ヲ爲シ各人間ニ信用ナルモノ生スルニ從ヒ其必用ヲ感スルモノナリ故ニ未タ信用ナキ幼稚社會ニ於テハ破産法ノ必要ナキモノトス是レ古代ニ於テハ社會ノ組織上信用ナルモノヲ重セサル結果トシテ破産法ノ必要ナカリシモ近世紀ニ至リテ

信用ヲ重スルト其ニ始メテ破産法ノ必要ヲ見ルニ至リシモノナリ抑モ信用ナルモノハ義務ノ履行ヲ確實ナラシムル擔保トナルモノナルカ故ニ信用盛ナル時ハ爲替手形若クハ約束手形ノ如キ信用證券モ亦盛ニ行ハル、コト、爲リ經濟上ノ流通モ之カ爲メニ圓滑ト爲リ社會百般ノ事業ヲ興起スルニ至ルヘキナリ然ルニ若シ義務ノ履行ヲ怠リ若クハ手形義務ノ不支拂等ノ事アリトセンカ社會ノ信用ニ背戾スルノ結果右信用證券ハ遂ニ其性質タル流通ノ効ヲ失フニ至リ農工商業ノ發達ヲ妨ケ社會經濟ノ進歩ヲ害スルコト決シテ尠少ニアラサルヘシ此等信用ニ背戾シ社會經濟ノ進歩ヲ妨害スルコトナカラシムルノ救済方法ハ之ヲ設ケサルヘカラス是レ即チ破産法ノ出產ヲ促シタル所以ナリ破産法ハ債務者カ債務ノ支拂ヲ停止スルコトヲ防止シ又ハ既ニ其停止アリタルトキハ是ヨリ生スル損害ヲ減少シ以テ社會ノ信用ヲ維持センカ爲メノ規定ニ外ナラス而シテ信用ノ盛大ニ行ハル、ニ至リタルハ全ク近世紀ニ在リテ前世紀ニ於テ未ダ曾テ其例ヲ見サル所ナリ故ニ何レノ邦國ニ在リテモ破産法ノ發達ハ概シテ近世紀ニ在リト云フコトヲ例記スルヲ得ヘキナリ即チ佛國ニ於

二

テハ千八百七七年ニ至リ那翁商法ヲ發布シ千八百三十八年ニ之ヲ改正シ獨逸ニ於テハ千八百七十七年ニ於テ現行破産法ヲ發布シ和國ハ千八百三十八年米國ハ千八百六十七年ニ之ヲ發布シ英國ハ千八百四十九年ニ發布シ後數度ノ改正ヲ經テ遂ニ千八百八十三年ニ至リ現行破産法ノ發布ヲ見ルニ至レリ我國ノ現行法ハ從來ノ身代限法又ハ家資分散法ト相似タル所アリト雖モ決シテ此等ノ法律ヨリ發達進化シタルモノニアラスシテ全ク佛國ノ破産法ニ基キテ之ヲ制定シタルモノナリ從テ身代限法又ハ家資分散法トハ其基礎ヲ異ニスルカ故ニ其精神モ自ラ異ナラサルヲ得ス是ヲ以テ我國ニ於テハ現行破産法發布以前ニハ殆ント破産法ナルモノ存在セスト云フモ決シテ過言ニアラサルナリ

破産法ハ社會ノ德義ト一國ノ商工業上ノ發達ト重要ナル關係ヲ有スルカ故ニ其國ノ狀態ノ如何ニ從ヒ或ハ寬嚴其程度ヲ異ニシ或ハ其適用ノ範圍同シカラサルヲ見ルナリ例ヘハ英米ノ破産法ノ如キハ破産處分ハ債權者並ニ債務者ノ選定シタル破産管財人ニ一任シ裁判所ハ毫モ之ニ干渉スルコトナク唯必要ナ



ル場合ニ於テ之ヲ監督スルニ過キヌ之ニ反シテ佛國破産法ニ於テハ裁判所ハ常ニ破産處分ヲ監督シ其處分ヲ決シテ一私人ノ隨意ニ處理スルコトヲ許サス我國ノ破産法モ佛國法ヲ基本トシタル結果一私人ノ自由ニ放任セサルナリ故ニ或ハ之ニ名稱ヲ附シテ英米ノ破産法主義ヲ放任主義ト云ヒ佛國又ハ我國ノ破産法ノ主義ヲ干涉主義ト云フナリ而レトモ其放任ト云ヒ干涉ト云フモ皆是レ總體ノモノニアラスシテ程度ノ厚薄ニ過キサルコトヲ知ラサルヘカラス次ニ破産法ハ其國情ノ如何ニ因リテ其寬嚴ノ程度ヲ異ニスルハ義務免脱主義ト非免脱主義是ナリ英國法ハ破産處分ハ義務免脱ノ方法ナリト規定スルモ佛國及我國ノ破産法ハ義務免脱ノ方法ニアラス縱令財産處分ヲ結了スルモ義務ハ決シテ消滅セスシテ履行ヲ終ラサル限りハ子々孫々ニ至ルマテ繼續スヘキモノトスルナリ此主義ハ立法上一利害アルモノニシテ若シ社會ノ德義信用共ニ發達スルトキハ免脱主義ヲ採用スルハ其宜シキヲ得タルモノナリ何トナレハ所謂破産ナルモノハ必スシモ債務者ノ惡意又ハ過失ニ因リテ起ルモノニアラス天災地變ノ爲ニ其財産ヲ蕩盡スルコトアルヘキヲ以テ此等ノ者ニ無

限ニ債務ヲ繼續セシムルハ是レ一時ノ天災ノ爲メニ敏腕ノ實業家ヲシテ遂ニ其敏腕ヲ振フノ地位ヲ與ヘタルノ結果トナルヘケレハナリ反之社會ノ德義信用ノ發達セサル國ニ於テハ漫ニ免脱主義ヲ採用スルトキハ狡猾者流ニ故意ニ破産シ不正ニ富ヲ得ルノ方術ヲ與フルト同一ナル結果ヲ生スヘシ故ニ立法上免脱主義ヲ取捨スルハ其國情ノ如何ヲ顧ミテ立案スヘキモノナリト雖モ予ハ非免脱主義ヲ以テ純理ニ適スルモノト信ス委細ハ後日ニ譲ラン  
尙一ノ研究スヘキハ破産法ヲ適用スル範圍是ナリ是又國情ノ如何ニ因リ或ハ人ヲ限リ之ヲ適用スル國アリ或ハ取引ノ種類ヲ限リ之ヲ適用スル國アリ然レトモ要スルニ破産法ノ目的トスル所ハ法理ニ適合シ公平ニ之ヲ處分シ以テ破産者ト債權者トノ間ニ於ケル相抵觸スル利益ヲ保護スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ社會ノ公益ヲ圖ルニ在ルヲ以テ之カ研究ニ從事スル者モ其複雜ノ關係アルコト及ヒ困難ノ學科ナルコトヲ知了スルコトヲ得ヘキナリ

## 第一章 總論

### 第一節 通論

破産法ヲ研究スルニ當リテ第一ニ起ル問題ハ破産トハ如何ナル狀態ノモノヲ云フカノ點是ナリ此問題ヲ解クニ第一ニ商事ト民事トノ區別ヲ知ラサル可ラス何トナレハ破産ハ商事ノミニ限リテ民事ニナキコトナレハナリ即チ破産トハ商事取引ヲ爲スニ付テ支拂ノ停止ヲ爲スヲ云フモノナリ此支拂ノ停止アルハ裁判所ハ破産ノ宣告ヲ爲シ其宣告ニ因リテ破産者ハ自ラ財産ヲ管理スルノ權利ヲ失ヒ管財人之ニ代リテ管理ス故ニ其後ニ於テ破産者ノ爲メタル取引ハ總テ無効ナルハ勿論其宣告前ノ取引モ法律ニ不當ト認ムルモノハ之ヲ取消スコトヲ得ルコト、セリ又債權者ハ凡テ一體ト爲リ各自ニ訴訟又ハ差押等ノ行爲ヲ爲スヲ許サス債權者ハ凡テ多數決ニ依リテ事ヲ決セサル可ラス故ニ其少數者ハ縱令其理不當ナリト信スルコトアルモ尙其議決ニ服從セサル可ラス而シテ破産財團ニ付テハ各債權者ノ利益ノ爲ニ管財人之ヲ保管處分ス又破産ノ制裁ハ破産者ニ耻辱ヲ與ヘ其宣告ニ因リテ破産者ハ公權私權ヲ剝奪セラル、モノナルコトヲ知ラサル可ラス例ヘハ破産ヲ爲シタル者ハ國會議員辯護士ト爲ルコトヲ得ス會社ノ役員仲買人ト爲ルコトヲ得ス而シテ此加辱ノ性質ハ場

合ニ因リテ輕重アリ其最モ甚タシキモノヲ詐欺破産ト稱ス即チ破産ニ詐欺ノ行爲ノ加ハリタルモノニシテ輕懲役ニ處セラルヘキモノ是ナリ次ハ過意破産ト稱スルモノニシテ三ヶ月以上四ヶ月以下ノ重禁錮ニ處セラルヘキモノ是ナリ終ヲ通常破産トス此場合ハ全ク刑罰ナキモ破産當然ノ結果トシテ公職ニ就クヲ得ス若クハ商業上ノ權利ヲ行フコトヲ得サルモノトス故ニ破産ニハ加辱ノ性質ヲ含マサルモノナシト云フ可シ然ルニ此ニ又支拂猶豫ナルモノアリ是レ全ク破産ト其性質ヲ異ニス從テ加辱ノ性質アルコトナキモノナリ支拂猶豫ハ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルヲ得サルニ至リタル場合ニ債權者多數ノ承諾ヲ得テ一ヶ年以内ノ支拂延期ヲ受クルモノナリ

## 第二節 破産法ノ目的

「コールドヘンレー」氏ハ其著破産法ニ於テ謂ヘルコトアリ各國破産法ノ最大目的トスル者ニアリ曰ク債務者ノ財産ヲ最モ便宜ニ最モ公平ニ最モ經濟的ニ配分スルコト曰ク債務者ニ於テ其財産ヲ擧ゲテ債權者ニ一任スルニ於テハ債務者ヲシテ債務ノ羈束ヲ免レシムルコト即チ之ナリト

右第一ノ點ニ付テハ各國ノ法律皆之ヲ目的トセサルモノナシ然レトモ第二ノ點ニ至テハ凡テノ邦國皆同一ナリト云フヲ得ヌ例ヘハ英米國破産法ニ於テハ破産處分ノ落着ヲ告ケタルトキハ破産者ハ義務ノ免除ヲ受ケ他日再ヒ其不足ヲ辨濟スルヲ要セス換言スレハ破産ハ義務免除ノ原因トナルモノナレトモ佛國法系ニ屬スル諸國ノ法典ニ於テハ之ニ反シテ破産ハ義務免除ノ原因トナルモノニ非スレテ他日資產ヲ回復シタルトキハ更ニ其不足額ヲ辨濟セサル可カラス而シテ我國ノ破産法ハ重ニ佛國法典ニ基キ制定セラレタルモノナレハ尙佛法ノ如ク破産ハ義務免除ノ原因トナルモノニアラス故ニ「コールド・ヘンレ」氏ノ第二ノ目的トスル所ハ佛國及我國ノ法典ニ於テハ正反對ナリト言ハサルヘカラス蓋シ我國及ヒ各國破産法ノ違セントスル目的ハ左ノ諸點ニ在リト云フテ可ナカルヘシ

#### 第一、債權者ノ權利ヲ保護スルコト

債權者ニ出來得ル限リノ救済ヲ與ヘ以テ損失無カラシムコトヲ期ス例ヘハ破産宣告ニ因リテ債務者ニ治産權ヲ失ハシムルカ如キ規定ハ債權者ノ

#### 第二

爲ニスルモノナリ何トナレハ破産處分ヲ爲スモ尙破産者ヲシテ隨意ニ其財産ヲ處分スルコトヲ得セシメンカ爲ニ破産者ハ其財産ヲ隱匿スルノ惡弊ヲ醸シ債權者ヲ害スルコトアルヘケレハナリ  
債務者ノ權利ヲ保護スルコト例ヘハ第一千七百七條ニ規定スル如ク管財人ヲシテ破産者ノ營業ヲ施行セシムル如キ場合ハ債務者ヲ保護スルモノナリ又英米法律ノ如ク破産ヲ以テ義務免除ノ原因ト爲ス如キハ實ニ債務者ヲ保護スルコトノ重大ナルモノナリ蓋シ之カ理由トスル處ノモノハ破産アリタレハトテ必スシモ惡ムヘキモノニ非ス或ハ不幸ニ遭遇シ天災ノ爲ニ財産ヲ失ヒ破産ヲ爲スニ至リタル如キ彼ノ投機若クハ驕奢ノ爲メニ自己ノ財産ヲ失ヒタルモノト異ナリ其人ニ罪ナク所謂偶然ノ事ニヨリ苦境ニ陥リシモノナレハ其情モ實ニ憐ムヘク悲ムヘキモノナリ故ニ英米法律ノ如ク現財産ノミヲ取其義務ヲ免除セシムルハ文明社會ノ好意ニ基クモノナリト云フニ在リ然ルニ我國ニ於テハ此點ニ付テハ佛法ニ倣ヒ破産ヲ以テ義務免除ノ原因ト爲サス是レ其目的トスル

所ハ名ヲ破産ニ假シテ義務ノ免脱ヲ僥倖セントスルノ弊害ヲ除カント  
スル者ニシテ二者何レモ其理ナキニ非スト雖モ余輩ハ此點ニ付テハ佛  
法及我國ノ法律ヲ以テ純理ニ適フモノト信ス何トナレハ破産ヲ義務免  
脱ノ原因トセザルニ於テハ天災不慮ノ爲メニ破産シタルモノハ再ヒ其  
力ヲ伸スコト能ハサル者ニシテ實ニ憐ムヘキ者ナリト雖モ其不幸タル  
ヤ自己ノ受タル者ニシテ之ヲ他人ニ嫁セシムヘキモノニアラス其義務  
ヲ免脱スヘキモノトセハ債權者モ亦爲メニ損害ヲ受ケ債務者一身ノ不  
幸ハ延ヒテ他人ヲシテ不幸ノ境ニ陷ラシムルコトナル況ヤ破産ノ多  
クハ投機若クハ驕奢ヨリ來リ其天災若クハ不慮ノ事變ニ起因スルカ如  
キハ實ニ稀ナルニ於テヲヤ

### 第三

社會ノ信用ヲ維持スルコト  
彼ノ過怠破産詐僞破産ヲ罰スルカ如キハ破産ヲ豫防シテ一般ノ信用ヲ  
保チ百般ノ取引ヲシテ圓滿ニ行ハシメントスルニアリ又債務者ノ公權  
及ヒ私權ヲ剝奪シテ社會一般ノ人ト相接セシメサルモ他人ヲシテ安心

### 第四

事ニ從事セシメントスルニアリテ畢竟社會ノ信用ヲ維持スルカ爲メノ  
債權者相互間ノ權利ヲ保護スルコト  
例ヘハ債權者ニ於テ會議ヲ爲サシムルカ如キ債權者相互ノ爲ニ規定シ  
タルモノナリ蓋シ債權者ノ勝手ニ事ヲ處理セシムルトキハ財產處分方  
法一定セス不公平ヲ生スルノ恐れアルカ爲ニ會議ヲ開キ多數債權者ノ  
議決ヲ取リ以テ債權者全體ノ利益ヲ保護スルモノナリ  
要之破産法ノ目的ハ一言以テ之ヲ掩ヘハ社會ノ安寧信用ヲ維持シ併セテ債權  
ノ實行債務ノ履行ヲ公平ニ且ツ鞏固ニセシカ爲メノモノナリ而シテ破産法ハ  
完美ナルト否トハ其目的ヲ達スルト否トニアリテ立法者タルモノハ深ク注意  
セサルヘカラサル所ヲモノナリ

### 第三節 破産ト家資分散トノ區別

破産ト家資分散トノ差異ナル點ヲ擧クテハ左ノ如シ  
第一 破産ハ商ヲ爲スモノニアラサレバ之ヲ宣告スル能ハサルモ家資分散ハ

獨リ商事ノミニ限ルニ非ス凡ソ負債ヲ辨濟スル能力ナキモノニ付テハ其取引ノ商事タルト民事タルトヲ問ハスシテ常ニ宣告スルコトヲ得可レ破産ト家資分散トニ此ノ如キ區別ヲ設ケタルハ種々ノ議論アル處ナレトモ予輩ヲ以テ之ヲ見レハ凡ソ義務ヲ盡サハルハ商事ニ於ケルモ民事ニ於ケルモ同一ニシテ區別アルノ理ナケレハ民事ニ於ケルモ商事ニ於ケルモ其取扱ハ均シク一定平等ニ爲サハル可カラサルモノナリト信スルナリ

## 第二

破産ハ單ニ支拂停止アルノミヲ以テ足レリトスルモ家資分散ハ無資力ナルコトヲ要ス抑モ支拂ヲ停止スル者カ必スシモ支拂ノ能力ナキモノ即チ無資力ナルモノニ限ラス支拂ノ停止ト無能力トハ自ラ異ナレリ例之支拂能力アルモ其債務ヲ果スノ用心ヲ爲サスシテ一時支拂ヲ停止スルコトアリ又反之財産一文トレテナキモ信用ニヨリテ義務ヲ履行シ支拂ヲ停止セサルコトアルカ如シ故ニ破産ハ財産ノ有無ニ拘ハラス支拂ノ停止アレハ足レリト雖モ家資分散ハ必ラス資力ナキコトヲ證明セサ

## 第三

ル可ラス且證明サヘアレハ支拂停止ナキモ家資分散ノ宣告ヲナスコトヲ得可シ

破産ハ一定ノ機關アリテ萬事此機關ニ依ルヘキモノニシテ此機關ニヨリテ運轉スルヲ得レトモ家資分散ニハ一定ノ機關ノ設ケアルコトナシ例之破産ニハ破産管財人債權者ノ集合及裁判所ノ如キ機關ノ設ケアリテ一トシテ各自ニ事ヲ處理スルコトヲ得サレトモ家資分散ニハ特ニ之カ爲ニ設ケタル機關アルコトナシ要スルニ破産ニ此ノ如キ機關ノ設ケアルハ各債權者相互間ノ利益及破産ノ利益ヲ公平均一ニ保護シ偏頗ナカラシメンコトヲ期スルト同時ニ又公益ヲ維持セントスルニ在リ破産ハ破産者ヲシテ財産ノ管理權ヲ失ハシムルモ家資分散ニアリテハ之ヲ失ハシムルモノニ非ス故ニ家資分散ニ於テハ其財産ノ幾部又ハ全部ヲ減少漏脱スル弊ヲ免カレスト雖モ破産ニアリテハ此ノ如キノ弊害ヲ生スルコト甚タ稀ナリ

## 第四

### 第四節 破産法ノ地位

破産法ハ法律ノ分類中公法ニ屬スヘキモノナルヤ將タ私法ニ屬スヘキモノナルヤト云フニ法律ヲ公法私法ニ區別スルノ標準ハ學者間ニ種々ノ說アレトモ其中一般ニ是認セラレタル說ニ依レハ私法ハ人民相互間ニ起ル所ノ關係ヲ規定スルモノナリ公法ハ國ト國トノ關係又ハ國ト人民トノ關係ヲ規定スルモノナリト云フニアリ今此說ニ從ヘハ破産法ハ一概ニ公法ナリトモ斷言スルヲ得ス又私法ナリトモ斷言スルコト能ハスシテ公法私法ノ兩法相混合シタルモノナリト云フノ外ナシ例之破産主任官ヲ設ケ破産管財人ヲ選定シ過意破産詐偽破産ヲ規定シ之ヲ罰スルカ如キハ公法ノ性質ヲ有スルモ債權者相互間ノ關係ヲ規定シタルモノ、如キニ至テハ實ニ私法ノ性質ヲ備フルモノト云ハサル可ラス然レトモ凡ソ公法ト稱シ私法ト稱フルモ全然公法上ノ規定ノミヲ以テ組織シ若クハ私法上ノ規定ノミヲ以テ成立スルモノニ非ラヌ公法中ニモ或ハ私法上ノ規定ヲ含ミ私法中ニモ公法的ノ規定ヲ包含スルコトハ免レサル處ナリ例之民法商法ハ私法ナレトモ其内ニ罰金ニ處シ若クハ刑罰ニ處スル規定即チ公法ニ關スル規定アルカ如シ又刑法刑事訴訟法ハ公法ナレトモ其中ニ加害

者ト被害者トノ關係ヲ規定シタル民法ニ關スル條文ノ如キハ私法ニ屬スルカ如シ此破産法ニ至リテハ公法私法其規定半ハ何レヲ主トシ何レヲ從トスルヲ得ス故ニ破産法ハ相混合セル一種ノ混合法ナリト云フヲ妨ケサルナリ破産法ハ主法助法ノ何レニ入ルヘキモノナルヤト云フニ各國概テ之ヲ主法中ニ編纂セリ即チ佛以白和等ハ之ヲ商法中即チ主法中ニ規定セリ然レトモ之ヲ精密ニ分析スレハ破産法ハ亦主法助法共ニ混同シタルモノト云フ可シ或人ハ破産ヲ民事訴訟法ノ強制執行ト比シ破産法ヲ助法ナリト論スルモ是レ一ヲ知テ二ヲ知ラサルモノナリト云フ可シ看ヨ彼ノ破産法ニヨリテ未タ期限ノ至ラサル債權ヲ期限ノ至リタルモノトスル如キ(第九八八條)又債權ニ對シテ利息ヲ生スルコトヲ停止スル規定ノ如キ(第九八九條)其他破産法第二章ノ破産ノ効力ニ關スル規定、協諾契約ニ關スル規定、削除權ニ關スル規定等ノ如キ皆一トシテ權利義務ノ規定即主法ノ規定ナラサルハナシ其他破産法中主法ニ屬スル規定少ナカラスシテ今一々之ヲ列舉スルノ邊ナシト雖モ諸君ハ後日ノ講義ニ於テ比法ノ規定甚タ多キニ居ルヲ認ムヘキナリ故ニ予ハ破産法ハ之ヲ強制執行ニ主

スルヲ得シテ寧ロ會社解散ノ場合ニ比スルコト允當ナリト信ス會社解散ノ場合ニ精算人ヲ設定スルハ破産ノ場合ニ管財人ヲ設定スルニ比スヘク會社解散ノ場合ニ社員間及會社ノ債權者債務者間ノ權利義務ヲ規定シタルハ猶ホ破産ノ場合ニ破産者ト其債權者債務者間ノ權利義務ヲ規定シタルニ異ナラス唯破産法ニ於テハ權利義務ニ關スル規定ノ外助法ノ規定彼ノ會社解散ノ規定ニ比レテ更ニ多キヲ見ルノミ而シテ破産法ノ主トスル處ハ債權者債務者及債權者多キ場合ニ於テ其相互間ニ付キ債務ニ於ケル各自ノ權利義務ニ關スルコトヲ規定スルモノナレハ其目的ヨリ論スレハ寧ロ私法ニシテ主法ニ屬スルモノナリト云フモ敢テ不可ナカル可シ

又破産法ハ民法商法何レニ屬スヘキヤト云フニ其說二アリ一說ハ曰ク破産法ハ重ニ商人ニ適用スヘキモノナレハ商法中ニ規定ス可シト佛伊白耳義和蘭等ノ諸國ハ皆此主義ニ倣ヒ破産法ヲ商法中ニ規定セリ他ノ一說ハ破産法ハ商人非商人ヲ分タス一般ニ適用ス可シト曰フニアリテ英米及獨乙法ハ此主義ヲ採用レテ一般法中ニ列シ之ヲ商法中ニ規定セス蓋シ此區別ハ法律ノ適用ヲ受ク

可キ人ヲ基礎トシテ分チタルモノナレトモ我商法ニ於テハ破産法ヲ適用ス可キ區域ヲ人ヲ以テ分タス其取引ノ性質ヲ以テ分チリ即チ商取引ニハ其商人タルト非商人タルトヲ問ハス破産法ヲ適用シ民事取引ニハ假令商人ニテモ之ヲ適用セスシテ家賃分散法ヲ適用スルコトセリ改正商法施行條例ニ於テハ第九七八條ヲ改メテ破産法ハ之ヲ商人ノミニ適用スルコトヲナレバ以テ同法施行ノ曉ニハ此點ニ關シ變更アルコトヲ承知スヘシ

抑モ破産法ヲ商人ニノミ適用スルヲ可トスル說ハ商人ハ巨多ノ資本ヲ融通スルモノナレハ其人ノ盛衰消長ハ多數人民ニ影響スル處少ナカラス故ニ商人ノ破産ハ非商人ノ破産ヨリモ社會ノ信用ヲ害スルコト大ナレハ殊ニ峻嚴ナル法律ヲ以テ豫メ之ヲ防止スルコトヲ勤メサル可ラス又商人ハ法律上商業帳簿ヲ調製スルノ義務アルヲ以テ第三一條破産ノ場合ニ於テモ財産及支出收入ノ狀況ヲ調査シ配當計算ヲ爲シ詐欺破産過怠破産等ヲ認めルニ便利ナルモ非商人ハ帳簿ヲ調製スルノ義務ナキヲ以テ是等ノ便ヲ欠ケリ故ニ非商人ニ破産法ヲ適用スルハ不可ナリト云フニ在リ然レトモ余輩又以テ之ヲ見レハ商人ト雖

モ必スシモ多額ノ資本ヲ融通スルモノニ非ラス彼ノ露店小賣商紙屑買若クハ  
 ガラスノ破片ヲ買ヒ歩ク商人アリ或ハ僅小ノ金額ヲ以テ僅カニ受賣ヲ營業ト  
 ナシ漸ク糊口ヲ濕ス商人アリ此等ハ名ハ商人タルニ相違ナキモ決シテ多額ノ  
 資本ヲ融通スル者ナリト云フ能ハス又他人ノ資本ヲ流用スルノ信用アルモノ  
 ニ非ス故ニ此等ノ商人ニ於テハ支拂ノ停止若クハ無資力トナルモ僅カニ其人  
 一身若クハ一二ノ債權者ヲシテ僅小ノ迷惑ヲ掛ケシムルニ過キスシテ爲メニ  
 社會ノ經濟ヲ紊ルカ如キハ万々アル可カラス然レトモ尙ホ峻嚴ナル破産法ニ  
 支配セラルハノ必要アリヤ之ニ反シテ民事ノ取引ヲ爲スモノナリト雖モ或ハ  
 奢侈ノ爲メニ數萬ノ負債ヲ爲シテ其結果遂ニ破産ヲ爲スニ至リ爲メニ他人ニ  
 非常ナル迷惑ヲ被ラシムルコトアル可シ果シテ然ラハ其間豈ニ不權衡ナシト  
 謂フヘケンヤ而シテ彼商人ハ帳簿ヲ備フルヲ以テ財産ノ調査ヲ爲スニ便ナリ  
 トカ詐欺若ハ過怠ノ所爲ヲ發見スルニ容易ナレハ破産法ハ商人ニノミ之ヲ適  
 用スヘシト云フカ如キハ實ニ薄弱取ルニ足ラサル議論ナリト云フヘシ何トナ  
 レハ是レ實質ノ利害ノ問題ニ關セスシテ證據ノ問題ニ歸スヘキモノナレハナ

リ故ニ破産法ハ商人ニノミ適用スヘシト云フ主義ニ至リテハ予輩ハ同意スル  
 ヲ得ス然ラハ我商法ノ如ク商取引ニ於テ之ヲ定メ商人ト非商人トヲ問ハス之  
 ヲ適用スルヲ可トセシカ之レ亦不都合ノ點ナキ能ハス抑モ此主義ニヨレハ破  
 産法ハ商取引ヲ爲ストキノミ之ヲ適用スルモノナレハ商人ト雖モ家事向キ又  
 ハ民事上ノ取引ヲ爲スモノニ付テハ破産法ヲ適用スルヲ得ス然ルニ凡ソ商人  
 カ慎重ニ其資本ヲ用ヒ他人ニ迷惑ヲ蒙ラシメサルコトニ注意スヘキハ此商業  
 用ト家事用トノ間ニ差ナカルヘキ筈ナルニ一ハ破産法ヲ適用シ一ハ之ヲ適用  
 セストセハ豈奇怪ノ至リナラスヤ

故ニ予輩ハ破産法ハ英米ノ如ク之ヲ普通法ト爲シ商人非商人ヲ問ハス又商事  
 ト民事トヲ論セスシテ適用スルヲ可ナリト信ス何トナレハ民事ニ於ケルモ商  
 事ニ於ケルモ債務ハ債務ニシテ其間ニ區別アルモノニ非ス去レハ又之カ制裁  
 ヲ區別スル謂レアルヲ見サルナリ況ンヤ我商法第十二條ニ依レハ一方ノミニ  
 對シテ商取引トナル場合ニ付テモ尙ホ商法ノ規定ヲ双方ニ適用ストアリテ此  
 場合ニハ民事上ノ取引ト雖トモ猶ホ破産處分ヲ受ケサル可カラスシテ其人ニ



付キ之ヲ見レハ他ノ民事取引ヲ爲シタルト異ナラサルニ一ハ峻嚴ナル破産法ヲ適用シ一ハ寛大ナル家資分散法ヲ適用スルカ如キ不公平ヲ來タスコトアルニ於テヲヤ

## 第二章 破産ノ開始

### 第一節 破産行爲

我商法ニ依レハ破産行爲トハ商ヲ爲スニヨリ支拂ヲ停止スル行爲ナリ故ニ破産行爲ヲ構成スルニハ二條件ヲ要ス第九七八條曰ク商取引ニ關スルコト曰ク支拂ヲ停止スルコト是レナリ

#### 第一款 商取引

商法第五百七十八條ニハ「商ヲ爲スニ當リ云々」トアリ「商ヲ爲ス」トハ商法第四條乃至第六條ニ掲クル「商取引ヲナス」ノ意味ナルコトハ「商ヲ爲ス」トイフ文字ノ商法中所々ニアリテ其簡條ヲ參照スレハ明白ナリ例之商法第十條乃至第十四條ニ「商ヲ爲ス」ト云フ文字ヲ使用セリ是等ノ條ニヨリテモ皆商ヲ爲ストハ「商取引ヲ爲ス」ノ意味ナルコトハ一目瞭然タリ果シテ然ラハ破産法ハ民事ニ關レタ之

## 財政學

法學士 有賀長文 講述  
校 友 小田幹治郎 編輯

### 緒 論

#### 第一節 財政學ノ名稱

財政學トハ如何ナルモノナルカ此ニ其名稱ノ由テ來リシ所以ヲ一言セントス蓋シ學名ノ由來變遷ヲ探究スルトキハ自ラ其學科ノ起源並ニ沿革ヲ了會スルノ便アレハナリ

財政學ハ獨逸語之ヲ「フィナンツ」ウツセンシヤフトト謂ヒ「ウツセンシヤフト」ハ學ノ義ニシテ「フィナンツ」ハ財政ノ義ナリ獨ノ財政學者「ロツセル」氏ハ「フィナンツ」ナル語ノ變遷ヲ説明シ曰ク「フィナンツ」ナル語ノ意義ハ古來三度ノ變遷ヲ經タリ遠ク中古

ノ末葉ニ於テハ負債ヲ償還スルノ意義ヲ有シ爾後漸ク其意義ヲ擴張シテ諸般ハ支拂即チ支拂金ノ意義ニ用非同時ニ支拂限ノ意義ヲモ有シタリ降テ十六七世紀ノ交ニ至リ獨逸國民ハ之ヲ重キ負擔ノ意義ニ用非現今ニ於テハ一般ニ國家ノ家計ナル意義ニ用ユルニ至レリ始メテ此第三ノ意義ニ用非タルハ佛國人ニシテ實ニ十六世紀ノ頃ナリトス當時佛國ニ於テハ顯理第四位ニ即キ全歐ノ霸權ハ佛國ノ手ニ掌握セシヲ以テ歐洲大陸諸國ノ人民ハ爭フテ佛語ヲ修メ隨テ國家ノ家計ナル新意義ハ悠忽ニシテ歐洲全土ニ普及シ爾來フナントナル語ハ此意義ヲ有スルニ至レリ

## 第二節 財政ノ意義

「フキナンツ」ナル語ハ現今國家ノ家計スタート、ハウスハルト」ナル意趣ヲ有スルコト右ノ如シ而シテ國家ノ家計トハ如何ナルコトヲ意味スルカ凡ソ人類ハ四肢五體ヲ有シ感觸力ヲ具ヘテ寒暑飢渴ヲ知覺シ又精神即チ識別力ヲ有シテ事物ノ利害得失ヲ辨別ス故ニ人類ノ行爲ハ一トシテ經濟的要素ヲ具備セサルコトナク人々相互ノ關係モ亦隨テ經濟的要素ヲ含有セサルハナシ然ラハ經濟的要素

素トハ如何最小ノ努力ヲ以テ最大ノ效果ヲ收メントスルカ爲ニ最少ノ努力ヲ以テ最大ノ效果ヲ收メントスルノ通性ヲ有ス故ニ人類ノ行爲ハ常ニ最少ノ努力ヲ以テ最大ノ效果ヲ收メントスル力爭即チ經濟的要素ヲ具備セサルコトナシ而シテ是レ皆ニ一箇人ノ上ニ於テ然ルノミナラス箇人ノ結合團體タル國家ニ於テモ亦同一ナリトス國家ハ國家固有ノ需要ヲ有シ是レ皆ニ之ヲ充サントスルニハ勢ヒ之ヲ國家以外ノ物ニ求メサルヘカラス而シテ之カ爲ニハ整然秩序アル行爲アルコトヲ要ス換言セハ國家モ亦國家ニ特別ナル家計ナカル可カラス獨逸ノ碩學スタイン氏ハ此理ヲ釋明シテ曰ク國家ノ憲法及ヒ行政ナルモハハ國家思想ハ至高至大無限ノ發達ヲ目的トシテ進行シ而シテ一方ニ於テハ經濟的ノ手段ヲ規定シ度量シテ此進行ニ必要ナル制限ヲ加フ是レ國家經濟即チ財政ハ問題ニシテ且ツ其目的トスル所ナリ故ニ憲法及ヒ行政ハ唯經濟上爲シ得可キコトノミヲ爲スニ在リト定ニ至言ナリトス蓋シ國家アレハ此ニ國家ノ職務アリ而シテ其職務ノ何タルハ即チ憲法及ヒ行政上ノ問題ニ屬ス然レト

モ國家カ其職務ヲ行ハントスルニハ之ニ應スル支給ヲ仰カサルヘカラス是レ即チ國家經濟上ノ問題ニシテ國家カ其職務ヲ盡サントスルニ當リテハ勢ヒ此經濟上ノ制限ヲ受ケサルヘカラス是レ即チ財政ナリ故ニ財政ノ目的ハ國家行爲ノ範圍ヲ定ムルニ在リトス

國家經濟ハ國家ヲ組織セル國民個々ノ經濟ヲ集合セタルモノニアラスシテ個人經濟ノ上ニ立ツヘキ一種特別ノ經濟ナリ今二者ノ相異ナル點ヲ舉クレハ左ノ如シ

### 第二節 國家經濟ト個體經濟トノ差別

第一 國家ノ生産物ハ國家カ行フ所ノ政事ノ事業其他諸般ノ事業總體ニシテ之ニ關スル生産費ハ即チ國家ニ必要ナル支出ナリトス此生産物ニ對スル生産費ヲ要スルノ點ニ於テハ個人經濟ト違フ所ナシト雖モ國家ハ其生産物ヲ市場ニ輸送セテ之ヲ最高價ニ賣却シ其代金ヲ以テ自己ノ需要ニ供スルコトヲ得サルノミナラス其生産物ハ概チ無形ノ事業ナルヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得サルモノ多シ是レ個人經濟ト大ニ其趣ヲ異ニス又個人經濟ニ於テハ其生産物ヲ賣却スルニ當リ常ニ生産費用ト代價トノ關係ニ付キ最も有利ナル取引ヲ爲ス

ノ自由ヲ有スト雖モ國家經濟ニ於テハ此選擇ノ自由ヲ有セス國家ハ唯巧ニ國民ノ富ノ度即チ財力ト國家ノ需要トヲ相對比シテ其需要ヲ充タスニ必要ナル事業ヲ爲スニ過キス政府カ毎年豫算ヲ國會ニ提出シテ其協賛ヲ求ムルハ畢竟此比較對照ヲ爲スニ外ナラス獨逸ノ學者ワグネル氏ハ其著財政學ニ於テ國家經濟ハ全體ニ於テ相合フトノ原則ヲ定メタリ其意蓋シ國家ノ歲入出ハ相比例スルヲ要スト謂ニ在リ氏ハ更ニ此原則ヲ敷衍シテ曰ク「公共經濟即チ國家經濟ニ於テ物件生産費用ナルモノハ個人經濟ニ於ケルカ如ク普通ノ勞力及ヒ報酬ノ原則ニ依リテ支配セラレズ換言セハ賣主ト買主又ハ生産者ト消費者トノ間ニ自由ノ意思ヲ關ハスコトナク國家ハ單獨ノ意思ヲ以テ之ヲ定メ其權力ノ作用ニ依リテ其事業ニ對スル一定ノ報酬即チ租稅ヲ負擔スヘキコトヲ命令ス而シテ國民ハ必ス之ニ服從セサルヲ得サルモノナリト曾ニ其言ノ如シ然レトモ人或ハ曰ハン國家ノ費用ハ國會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要シ而シテ代議士ハ國民ヲ代表シテ之ヲ商議スルモノナリ故ニ普通ノ原則ニ從ヒテ國家ノ生産費用及ヒ其報酬ヲ定ムルモノト云フヲ得ヘキニアラヌヤト然レトモ國會ノ協賛ハ

國家ノ事業ト國民ノ財力トノ權衡ヲ定ムルニ在リ而シテ代議士ノ之ヲ議スルハ國民的ニ之ヲ議スルニアラスヨテ國家的ニ之ヲ議スルモノナリ

第二 國家ハ猶一個人ノ如ク資産ヲ有シ又勞働シテ富ヲ生産スルコトヲ得ヘキカ曰ク然リ國家ハ鐵山、山林、田宅其他種々ノ工業場ヲ有シテ幾多ノ收入ヲ得又銀行、鐵道、郵便、電信等ノ事業ヲ營ミテ幾多ノ利益ヲ得ヘシ然レトモ之ヲ各國ノ豫算ニ徵スルニ其全歲入中此等ノ資産及事業ヨリ收入スル所ノモノハ極メテ僅少ニシテ其歲入ノ大部分否殆ト其全部ハ租稅ヨリ成レリ而シテ此租稅ナルモノハ國民ヨリ徵收シタル資産ノ一部ナルヲ以テ國家經濟ニ於ケル收入ト個人經濟ニ於ケル收入トハ其性質全ク相同シカラス且ツ國家ハ箇人ノ如ク一定ノ收入ヲ有セサルコトヲ知ルヲ得ヘシ何トナレハ國家經濟ノ收入ハ所謂元始收入ニアラスシテ他人ノ手ニ存スル元始收入ヨリ其幾分ヲ徵收シタルモノナルト同時ニ租稅ノ額ニハ一定ノ制限アルコトナク國家事アルノ日ハ更ニ言フヲ埃タス荷モ國家ニ必要ノ費用ヲ生スルトキハ常ニ平日ニ比シテ多額ノ租稅ヲ徵收スルノ已ムヲ得サルモノアレハナリ

第三 一個人ノ經濟ニ於テハ費用ハ其收入ニ依リテ定マルト雖モ國家經濟ニ於テハ之ニ反シテ收入ハ費用ニ依リテ定マルモノナリ故ニ個人經濟ニ於テ第一ニ着眼スヘキハ收入ナリト雖モ國家經濟ニ於テハ其費用ナリトス豫算ヲ議スルニ歲出ヲ先ニシ歲入ヲ後ニスルハ畢竟之カ爲ノミ

第四 一個人ノ生命ニハ際限アリト雖モ國家ノ生命ニハ窮極アルコトナシ故ニ國家ノ需要ト國民ノ富ノ度ヲ相對照スルニ當リ其責任ノ局ニ當ル者ハ賢明ナル活眼ヲ以テ現在、目前ニ横レル近邇ノ事柄ノミニ拘泥セス須ラク遠ク千載ノ後ヲ遠觀セサルヘカラス國家經濟ノ問題カ極メテ困難ニシテ之カ任ニ當ル者ノ責任太々重ク又之ヲ誤ルノ容易ニシテ且危險ナルト同時ニ其任ヲ完ウスルトキハ其名聲ヲ不朽ニ垂ルハコトヲ得ルカ如キハ一ニ之カ爲ノミ

#### 第四節 國權の思想及ヒ私權の思想

一個人ヨリ租稅其他ノ負擔ヲ徵收スルハ國家固有ノ權利ナリト爲スモノ之ヲ國權の思想ト稱シ之ニ反シテ此ノ如キハ國家固有ノ權利ニ基クモノニアラスシテ私法的ノ權利義務ナリト爲スモノ換言セハ個人相互ノ間ニ於テ一方ヨリ

或物件ヲ引渡シ若クハ或事業ヲ爲シ他ノ一方ニ於テ之カ報酬トシテ代償又ハ其他ノ物ヲ支拂フノ義務アルト一般ナリト言フモノ之ヲ名ケテ私權的思想ト言フ此二箇ノモノハ財政學上ニ於ケル根本の二大思想ナルヲ以テ此ニ聊カ說明スル所アラントス

凡ソ法律國家即チ政事ニ關スルモノ經濟ノ三者ハ恰モ鼎足ノ如ク相關聯スルモノニシテ其一ヲ變スレハ他モ亦隨テ變セサルヲ得ス例ヘハ法律ヲ變更スルトキハ法律ヲ標準トシテ其範圍内ニ活動スル政府ノ行政モ亦隨テ變セサルヲ得サルカ如シ故ニ國家ニ關スル思想ノ如何ニ因リテ法律經濟ノ上ニ影響ヲ及ホスヘキハ固ヨリ言フヲ待タサルナリ「ロッセル」氏曰ク「法律ト國家ト經濟トハ互ニ密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ一般法律上ノ見解ハ國家ト國民經濟トヲ結合スル所ノ中心ナリ」ト

第一私權的思想ノ說 此說ニ曰ク凡ソ自由國民ノ國家ニ對シテ有スル所ノ義務ハ正ニ國家力與フル所ノ利益ト相對當シ國民ノ義務ト國家ノ事業トノ間ニハ一定ノ比例アリト今此說ヲ分拆スルトキハ國民力國家ニ對シテ納稅ノ義務

ヲ有スルハ猶債務者カ債權者ニ對シテ返金ノ義務ヲ有シ借地人カ地主ニ對シテ地代ヲ拂フノ義務ヲ有スルカ如ク又被保險者カ保險會社ニ對シテ一定ノ保險料ヲ拂ハサルヘカラサハト同シク其義務ハ常ニ其受クル所ノ利益ト相對當スルモノナリ故ニ其受クル利益ノ大小多寡ニ因リテ其義務モ亦大小ノ別アリト言フニ在リ此說ノ主唱者ハ佛國ノ碩學「モンテスキュー」氏ニシテ氏ハ明言シテ曰ク「國民ノ國家ニ對シテ納稅ノ義務ヲ負フハ猶被保險者カ保險會社ニ年々又ハ月々ニ一定ノ保險料ヲ支拂フ義務アルカ如ク所謂租稅ナルモノハ即チ保險料ナリ」ト此說タルヤ政府ヲ以テ一ノ保險會社ト爲シ其事業ヲ以テ一種ノ保險事業ト爲スモノニシテ實ニ太シキ謬見ト云ハサルヘカラス「トロー」ドホル民曰ク「負擔ハ交換ナリ」一方ノ與フル利益ニ對スル報酬ナリト是レ政府ヲ以テ一個ノ私立會社ト看做シ政府ノ職務ヲ以テ會社ノ業務ト同視スルモノナリ故ニ氏ハ「國家ト國民トノ法律上ノ關係ハ一個人相互ノ關係ニ於ケルカ如ク當ニ私法ヲ以テ規定スヘキモノナリ」ト言ヘリ此說ヲ推究スルトキハ一國ノ君主ハ即チ會社ノ社長ニシテ唯一個ノ所有權掌握者タルニ過キヌ之ヲ以テ主權者ナリ

ト言フコトヲ得ス隨テ君主ノ其國ニ對スルハ猶地主ノ其所有地ニ對スルト相違ハサルナリ是レ固ヨリ一説ナリト雖モ會社ハ利益ヲ以テ成リ利益ヲ以テ動作スルニ反シテ國家ハ利益ノ爲メニ成立シ動作スルモノニアラス實ニ固有ノ大目的ヲ有シ隨テ國家本來ノ事業ナルモノヲ有セリ「ロウセル氏曾テ曰ク國家ニハ總テノ人民ノ目的ト異ナル一種特別ナル公共ノ目的アルコトヲ知ラサル可カラス」ト蓋シ「モンテスキュー」及ヒ「トロードホル氏」ノ如キハ國家的思想ヲ有セサルモノナリ

第二國權の思想ノ説 此説ノ要旨ニ曰ク國家カ其臣民ヨリ租稅ヲ徵收スルハ國家固有ノ權利ニシテ此權利アルノ結果臣民ニ納稅ノ義務ヲ生スルナリ」ト更ニ之ヲ詳言スレハ臣民ハ國家ヨリ徵收セラル、租稅ニ相當スル利益ヲ受ケシヤ否ヤヲ問フノ違ナク又之ヲ問フノ權利ナシ蓋シ國家ハ國家ノ目的ヲ達センカ爲メ存シ決シテ一個人ノ目的ヲ達センカ爲メ存スルモノニアラス之ヲ一個人ニ比スレハ一層高等ナルモノニシテ公共の目的及ヒ利益ヲ有セリ而シテ此目的及ヒ利益ハ常ニ或ハ一個人ノ利益ト並行シ符合スルコトアリト雖モ又

全ク之ト相反スルコトナシトセス其利害相反スルニ當リテハ一個人ノ利益ハ國家ノ爲ニ犧牲ニ供セサルヲ得ス獨逸公法學者「アルブレヒト」氏曰ク「君主及ヒ臣民ノ權利ヲ二種ニ分類スルコトヲ得ヘシ其一ハ即チ箇人カ自己ノ爲ニ享有セントスル權利ニシテ之ヲ私權ト謂ヒ其二ハ即チ全體ノ爲メニ享有セントスル權利ニシテ之ヲ公權ト謂フ例ヘハ一君主アリ或事情ノ爲メ自己ニ於テモ不適當ト認ムル人物ヲ登庸シテ之ヲ侍醫又ハ宮内官吏ニ任用セリトセンニ是レ疑モナク愚策ナリ然レトモ未タ之ヲ以テ違法ノ所爲ナリト言フコトヲ得ス然レトモ若シ其者ヲ任用シテ國務大臣又ハ行政官ト爲ストキハ是レ明ニ違法ノ所爲ナリ何トナレハ侍醫又ハ宮内官吏ハ君主一人ニ關スルモ國務大臣又ハ行政官吏ハ國民全體ニ關スルモノナレハナリ而シテ此事タルヤ獨リ君主ノミニ限ラス臣民ニ於テモ亦此區別ヲ守ラサル可カラス臣民カ自己一個ニ關スル權利代理人ヲ擇フハ其自由ナリト雖モ國家全體ニ關スル權利代表者即チ代議士ヲ選舉セントスルトキハ君主ト同一ノ區別ヲ守ラサル可ラス」ト是レ即チ國權の思想ナルモノナリ而シテ此思想ハ一國文明ノ程度進歩スルニ隨ヒテ漸次發達

ス語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ文明ノ程度低キ時ニ於テハ未タ此思想ノ發達ヲ見サルナリ是レ實ニ國家ニ付テ然ルノミナラス更ニ劣等ナル協同團體即チ市町村ニ於テモ亦實ニ然リトス即チ其市町村全體ノ爲ニスルノ思想ハ發達セサル市町村人民ノ腦裡ニ含蓄セラル、コト少ナク況ヤ未開人民ニ於テハ絶エテ之レアルコトナシ「ロウセル」氏曰ク「共同體ニシテ眞ノ共同體即チ一個ノ法人トナラサルモノハ其實共同體ニアラスシテ唯一ノ集合體ナルノミ此ノ如キ集合體ニ於テハ若シ其收入ニ剩餘アルトキハ決シテ之ヲ公共ノ用ニ供スルコトナク乃チ之ヲ其團體員ノ間ニ分配スルヲ常トス是レ即チ公共思想ノ發達セサル例證ナリ」又市町村制ニ關スル著述ヲ以テ有名ナル「マイエル」氏モ亦曰ク「未タ發達セサル市町村ニ在リテハ公共ノ思想ニ乏シト」

國家ノ目的ヲ主トスル國權の概念ノ盛大ニ赴クニ隨ヒ曾テ其權力ノ無制限ナルコトヲ確信セシ某帝王ハ公言シテ曰ク「帝王ハ國家第一ノ臣僕ナリ」ト「フレデリック大王」然レトモ此公言ヲ爲シタルカ爲ニ帝王ノ權力ニ毫モ減殺ヲ來タサハルノミナラス却テ大ニ増進セルモノアルヲ見ルナリ何トナレハ其帝王カ臣民ノ財

產即チ租稅及ヒ生命即チ兵員ヲ要求スルヤ自己ノ名ヲ以テスルコトナク國家ノ名ヲ以テ之ヲ爲スヘケレハナリ蓋シ國王ハ國家ノ一機關即チ元首ナルコト猶人身ニ頭首アルカ如シ故ニ國家ノ意思ヲ外部ニ表彰スルハ國王ノ本務ナリトス

### 第八節

國權の思想ト私權の思想ノ結果ニ於ケル

#### 差異

國權の思想ヲ以テ觀察スレハ彼ノ自由ナル見解モ亦大ニ變化セサルヲ得ス何トナレハ私權の國家思想ニ於ケル臣民ノ政治的自由ハ全ク消極的ノ見解ヲ以テスルモノニシテ個人ノ行爲ハ國家ノ目的ノ爲ニ制限セラル、コトナシト言フニ在リト雖モ國權の國家思想ニ於テハ全ク之ニ反シ臣民ハ何レノ場合ニ於テモ國家ノ事務即チ政務ニ參與スルコトヲ得ヘシト言フニ在リ立憲國ト專制國トノ相別ル、モ亦主トシテ此ニ在リトス

當ニ自由ニ付テ其見解ヲ異ニスルノミナラス國權の思想ト私權の思想トハ總テノ事物ニ付テ其見解ヲ同シウセス請フ其二三ヲ例解セン先ツ皇位繼承ニ付テ觀察スルニ私權の思想ヲ以テ言ヘハ君主ハ即チ一個ノ地主ト同シキカ如ク

皇位繼承モ亦一個ノ民法上ノ行爲即チ遺產相續ヲ指スニ外ナラス之ヲ歐洲ノ歴史ニ徴スルニ其例證ノ顯然タルヲ知ル可レ彼ノ「チャールス」天王ノ崩スルニ當リ殆ント歐洲全土ニ涉ル廣大ナル領地ヲ分ナテ其諸子ヲ封シタルカ如キ其最モ著シキモノナリトス蓋シ國權的思想ヲ以テ觀察スレハ主權ハ決シテ分裂セラル可キモノニアラス然ルニ「チャールス」天王カ其主權ヲ分配シテ敢テ怪マサリシハ畢竟私權的思想ヲ以テシタルニ外ナラス其他此ノ如キ例證少ナシトヒス惟フニ當時ニ於テハ主權有リテ而シテ後領地アリシニアラス領地有リテ而シテ後主權アリシノミ「ハーレル」氏カ當時王侯ハ王侯タルカ故ニ領地ヲ有スルニアラス領地ヲ有スルカ故ニ王侯タルナリト言ヘルハ其眞ヲ寫シテ妙ナリト謂フ可シ然レトモ國家漸ク發達シテ國權的思想ノ發展スルヤ皇位繼承ノ如キハ之ヲ以テ國家ノ公事ト爲シ敢テ王家ノ私事ト看做サス故ニ法章ヲ以テ其順序ヲ規定シ國王ノ愛憎如何ヲ以テ恣ニ之ヲ變更スルコトヲ得サレム此ノ如キ國家ニ於テハ主權ノ移轉ニ伴ヒ全領地ノ移轉ヲ爲スモノトス私權的思想ト國權的思想トハ戰爭ニ於テモ亦著シキ差異アリ私權の國家ノ君

主カ外國ト兵ヲ交ユルニ當リ其兵士カ之ニ從フノ義務アルハ全ク私的義務タルニ過キス是レ封建時代ノ戰爭ニ徴シテ明白ナル事實ナリトス此時代ニ於テ兵士カ君主ノ戰爭ニ從フハ平生秩錄ヲ受ケテ家臣タルカ故ニシテ其臣民タルカ故ニアラス而シテ臣民ハ平生君主ノ撫恤ヲ受タルニ因リ其君主ノ勝利ヲ希フヘキハ固ヨリ言フヲ待タスト雖モ之ヲ以テ國家ノ戰爭ト看做サス單ニ君主一家ノ私戰トシテ痛痒相感セサルナリ彼ノ上杉武田ノ如キ連年兵ヲ交ユルモ而モ國民ハ敢テ懸念スル所ナカリシカ如キ又國兵ヲ舉テ朝鮮ノ役ニ從事セシメタルモ而モ國民ハ毫モ懸念スル所ナカリシカ如キ是皆一家ノ私戰ナレハナリ然レトモ國權の國家ニ於テハ一旦宣戰ヲ布告スルヤ其事情ノ如何ヲ問ハス最早王家ノ私事ニアラスシテ國家ノ公事ナル故ニ全國ヲ舉リテ其戰爭ニ從事セサルヘカラス今日國民皆兵ノ制度ハ蓋シ此思想ニ基キシモノナリ刑政ニ付テモ私權的思想ト國權的思想トノ相岐ル、所甚タ大ナリ例ヘハ後讎ノ如キハ私權的思想ニ出ツルモノニシテ刑罰ノ制度ハ則チ國權の思想ニ基クモノナリ故ニ被害者又ハ其族類ノ存セサルトキト雖モ國家ハ其加害者ヲ追究



シテ之ヲ處罰ス是ニ於テ乎國權確立シテ人民互ニ相復讐スルコトヲ許サ、ルナリ

立法ノ事ニ關シテモ亦差異ナシトセス私權の國家ニ於テハ國民ハ毫モ一般的ノ思想ヲ養成セザルヲ以テ法律モ亦一個人ノ利害ヲ先ニシ國家ノ休戚ヲ後ニス從テ法律ト國家トノ間ニ大距離ヲ存シ常ニ時勢ニ後レサルヲ得ス國權の思想ニ於テハ全ク之ニ反對ナリトス

### 第七節

#### 財政ニ關スル國權の思想ト私權の思想ノ

##### 差異

以上論スルカ如ク國家上ノ關係ニ於ケル國權の思想ト私權の思想トノ相岐ルハ所甚タ大ナリ而シテ財政ニ於テハ特ニ其差違ノ甚タシキモノアルヲ見ルナリ今私權の國家ニ於ケル歳入ノ種類ヲ見ルニ多クハ私權の收入即チ民法上ノ收入ナリトス何トナレハ私權の國家ノ收入ハ主トシテ官有財産ヨリ生シ又ハ官有事業ヨリ生スルモノナレハナリ之ニ反シ國權の國家ニ於テハ私人經濟ニ於テ決レテ見ルコトヲ得サル租稅ナルモノヲ以テ國家歳入ノ主要ナルモノ

ト爲セハナリ而シテ私權の國家ニ於テモ全ク租稅ナキニアラスト雖モ其部分極メテ僅少ニシテ且ツ國權の國家ニ於ケル租稅トハ其性質ヲ異ニスルモノナリ何トナレハ私權の國家ニ於ケル租稅ハ人民カ國家ヨリ受ケル利益ノ報酬トシテ之ヲ納ムルニ過キス恰モ今日ニ於ケル手數料ト其性質ヲ同ウスレハナリ加之租稅ヲ以テ利益ノ報酬ト爲スカ故ニ人民ハ多クノ利益ヲ貪リ而シテ少額ノ租稅ヲ納メンコトヲ是レ努メ其結果トシテ人民ノ負擔ニ著大ナル差等ヲ生シ彼此輕重ヲ異ニシ至弱ナル人民ハ却テ最重ノ負擔ヲ爲サハルヘカラサルノ不權衡ヲ見ルハ史籍ノ歷々證明スル所ナリ之ヲ換言スレハ私權の國家ニ於テハ多數者ノ恣ニスル所ト爲リ國家ノ公事ヲ以テ簡人ノ私事ト混同スルニ至ラントス故ニ國會ヲ開キ人民ハ立法ノ事ニ參與スル權利ヲ享有スルモ其權利ハ國民全體ノ爲ニ利用セラレスシテ一個人又ハ一社會乃至一階級ノ利益即チ特權ト爲ルノミ故ニ人ハ自由ヲ談セスレテ唯特權ヲノミ是レ爭ヒ一國ノ君主ハ國權ノ一部ヲ以テ私有權ヲ讓渡スルカ如ク私法的ノ手續ニ依リテ之ヲ臣民ニ移轉スルニ至ル之ニ反シ國權の國家ニ於テハ諸般ノ事物各其目的ノ爲ニ存シ一個人

ノ利益ノミヲ圖ラシメテ人民ノ受タル利益荷フ所ノ負擔ハ其ニ平等ヲ保チ敢テ彼此輕重アルコトナク弱者ハ強者ノ壓制ヲ受ケスシテ其ニ國家ノ爲ニ盡スコトヲ得ヘシ故ニ立法參與權ハ國民全體ノ名ニ於テ之ヲ行ヒ議員ハ一選舉區ヲ代表セスレテ國民全體ヲ代表シ選舉區民ハ其利害ノミヲ以テ代議士ヲ拘束スルコトヲ得ス又代議士カ得ル所ノ歳費ハ選舉區民ヨリ支出スルコトナクシテ之ヲ國庫ヨリ支給セ而シテ選舉人ハ單ニ選舉ノ權利ヲ有スルニ止マラス進ミテ國家ニ對シテ適當ナル代議士ヲ選舉スルノ義務アリ隨テ私法上ノ權利ノ如ク濫ニ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルナリ凡ソ此等ノモノハ皆國權の國家ノ思想ヨリ生スル結果ナリトス今之ヲ英國ノ歴史ニ徵スルニ今日ニ於テハ選舉權擴張セラレテ國權の思想大ニ發達セタリト雖モ昔日私權の思想ノ旺盛ナリシ頃ニ於テハ議院ニ出ツルコトヲ得ル者ハ貴族及ヒ富者ノミナリシヲ以テ自ラ借地人僕隸ノ如キ貧者ヲシテ苛重ノ負擔ヲ爲サシメ貴族ハ總テ租稅ヲ納ムルノ義務ナシトセタルコトアリレナリ

### 第八節 國權の思想ノ發達

前述セシ如ク國民開明ノ度ノ進歩スルト共ニ國權の思想ハ次第ニ發達スルモノニシテ開明ノ進歩ナル語ハ唯實力上ノ進歩ヲ意味スルノミナラス同時ニ德義上ノ進歩ヲモ亦含蓄スルモノトス而シテ公ノ權利ハ畢竟スルニ義務ニ均シク其發達ニハ左ノ三ノ者ト密接ナル關係ヲ有セリ

第一 鴻儒スタン氏曰ク國家經濟ノ歴史ハ之ヲ二期ニ分ツコトヲ得一ニ曰ク束縛ノ時期二ニ曰ク自由ノ時期是ナリ束縛ノ時期ニ於テハ各人ノ收入ハ一ニ其下ニ立ツ者ヨリ收ムルニ過キスシテ其歲入ハ亦上ニ立ツ主人ノ納ムル所タリ第二期即チ自由ノ時期ニ於テハ管ニ下ノ者ヨリ收ムルノミナラス各人ノ收入ハ其各人ノ經濟力ニ因リ其力ノ多少ニ應シテ増減スルモノナリ又束縛ノ時期ニ於テハ財政上ノ法律ナク又規律ナク君主ハ隨意ニ其歲入ヲ消費シテ而シテ毫モ責任ナシ之ニ反シテ自由ノ時期ニ於テハ其責任ヲ明ニスルヲ要スルヲ以テ豫算決算會計検査等ノ制アリ又束縛ノ時期ニ於テハ下層ニ在ル人民ハ財產ヲ有スレトモ恰モ之ヲ有セサルニ等シク其財產ハ常ニ上層ニ立ツ者ノ支配ニ屬セリ然レトモ自由ノ時期ニ於テハ人民ノ財產權ハ確實鞏固ニシテ法律ニ

依ルニ非サレハ之ヲ徵收スルコトヲ得ス又束縛ノ時ニ於テハ君主カ其職入ヲ消費スルハ君主ノ目的ノ爲メニシテ自由ノ時期ニ於テハ國家ノ爲メニアラサレハ之ヲ消費スルコトヲ得スト即チ第一期ニ在テハ私權的思想ノ旺盛ナルモノニシテ第二期ニ非サレハ國權的思想ハ發達セサルナリ

第二 國權的思想ノ發達ハ中央集權ト密接ノ關係アルモノトス中古ノ時代ニ於テモ國民中ニ種々ノ小團體アリ其最小ナルモノヲ一家族トシ村ヨリ町ト爲リ市ト爲リ郡ト爲リ更ニ大ニシテ府縣ト爲ルモ其各團體ハ各獨立セリ然ルニ中央集權ノ起ルニ隨ヒ此等ノ獨立團體ハ漸ク吸收セラレテ遂ニ郡市町村及ヒ府縣ハ總ヘテ國家ノ一機關トシテ其監督ノ下ニ立ツニ至リ而シテ國民ハ漸次其私益ヲ抛チテ之ヲ國家一般ノ公益ニ致スニ至レハ是レ國權的思想ノ發達セタル結果ナリトス

第三 國民ノ教育及ヒ富度ノ未タ發達セサル時代ニ於テハ各人ノ自由並ニ所有權ノ自由ナル主義アリテ之カ爲ニ公共的思想ハ頗ル薄弱ナリシト雖モ社會ノ開進スルニ隨ヒ漸ク之ニ反スル思想ヲ生スルニ至レリ即チ國家的、公共的需

要ノ増加スルト共ニ殊ニ勞力結合、消費結合等ノ増加スルニ隨ヒ下等人民ノ利益ヲ企圖スルノ思想ヲ誘致シ是ニ於テカ町村立小學校ノ如キ公共的事業ヲ見ルニ至ル例ヘハ往時ニ於テ富者ニアラサレハ普通教育ヲモ受クルコトヲ得サリシカ漸ク公共的思想ノ發達スルニ伴ヒ下等人民ト雖モ亦教育ヲ受クルコトヲ得ルニ至リシカ如シ此思想ハ實ニ國家上ニ良結果ヲ現出スルモノニシテ公共的精神ニ伴フ共同財產ハ利アリテ害ナキモノナリ然レトモ公共ノ精神ニ超過スル所ノ共同經濟ナルモノハ害アリテ益ナク經濟上ニモ德義上ニモ唯衰微滅亡ノ結果ヲ生スルノミ何トナレハ所謂公共的精神ヲ超過スル共同經濟トハ彼所謂社會主義及ヒ財產共同主義ヲ指スモノニシテ此等ノ主義ニ依レハ一人トシテ勤勞ヲ爲ス者ナカルヘケレハナリ故ニ此等ノ主義ハ單ニ下等貧民ノ苦情ニ過キサルモノトシテ之ヲ顧サルヲ可トス之ニ反シテ衛生、教育等ノ事業ヲ共同ニスルカ如キハ公共的精神ニ伴フ公共經濟ナルヲ以テ毫モ害アルコトナクシテ大ニ利益アリトス故ニ公共的經濟ハ國權的思想ヲ發達セシムルモノナルモ過度ノ共同經濟ハ惡ル可ク避ク可ク又大ニ戒ム可キモノナリトス

## 第九節 財政學ト國民經濟學トノ關係

財政學ハ國民經濟學ノ一部分ナリト雖モ此二者ハ其進歩ノ階級ヲ異ニシ沿革上迅速ノ差アリ然レトモ其初ハ共ニ倫理ノ眼ヲ以テ觀察セラレタリ是レ太古神學論ノ旺盛ナリシ交殊ニ希臘ニ於テ然リトス次ヲ中古ニ於テハ法律ノ眼ヲ以テ觀察セラレ今日ハ之ヲ實利上ヨリ論下スト言フモ可ナリ夫レ國民ノ眞ノ實利ハ德義ト法律ト互ニ相待ツヘキモノニシテ國民經濟ト財政トノ沿革ハ固ヨリ同一軌ナルモ學問上ノ發達ハ財政學ヲ以テ先ナリトス是レ蓋シ財政學ハ國民中最モ大切ナル一ノ共同團體即チ國家ノ家計ニ關スルモノナレハナリ加之國家ニハ命令權アリテ國家以下ノ團體ノ財產家計ハ之ヲ左右スルコトヲ得ルカ故ニ十分財政學ヲ攻究セサル可カラサルノ必要アリ是レ其發達ノ經濟學ヨリモ速ナリシ所以ナリトス

國家ノ財政其宜ヲ得サレハ則チ國民經濟ノ隆盛得テ期ス可カラス又國民經濟其宜ヲ得サレハ則チ國家財政ノ整備得テ望ム可カラス(ウルソ)氏曾テ其關係ヲ論シテ曰ク「財政ノコトハ單純ナル數ノ事ニ非ス實ニ一大政略ナリ健全ナル財政ナケレハ則チ健全ナル政府ナク健全ナル政府ナケレハ則チ健全ナル財政ナシト」又獨逸ノ碩學シモーレル氏曰ク「一國財政上ノ組織ハ其國諸般ノ經濟組織ノ要部ナリト英國ノ政治家バルク氏モ亦言ヘルアリ曰ク國家ノ歲入ハ國家其物ナリ國家諸般ノ力ノ源泉ナリ又國家ノ總テノ德行ノ範圍ナリト」之ヲ以テ知ル可シ財政學ハ國民經濟學中最モ緊要ナル部分ナルコトヲ

斯ノ如ク國民經濟學ハ未タ發達セサル時代ニ於テモ國アレハ則チ大藏省アリ財政ノ事務アリ其局ニ當リタル者ハ多少財政學ノ研究ヲ爲セリ故ニ財政學ハ夙ニ發達ヲ爲シト雖モ國民經濟學ノ發達シタルハ久シキ以後ニ在リトス其始メテ之ヲ研究シタルハ佛國ノ「ケチー」氏(十七世紀)及ヒ英國ノ「アダムスミス」氏(十八世紀)ニシテ「アダムスミス」氏ハ既ニ財政學ヲ論レテ國民經濟學ノ一部分ナリトシタルハ其著富國策ニ徴シテ知ルコトヲ得ヘシ然ルニ「アダムスミス」氏ノ流ヲ汲ミタル人々ハ財政學ニ對シテ「アダムスミス」氏ノ如ク完全ナル研究ヲ爲サハリレヲ以テ財政學ニ對シテ適當ノ見解ヲ懷キタル者ナク有名ナル「ジョン・バブチス」氏ノ如キモ財政ヲ以テ經濟學中消費品ノ部ニ屬スルモノトシ

地代論ヲ以テ雷名ヲ轟カセル「リカード」氏ハ租税ノ事ヲ論セサルニ非サルモ毫モ其性質ヲ論究セス唯租税カ物價ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ研究シタルノミ又人口論ヲ以テ噴々タル「マルサス」氏ハ財政ノ事ヲ措テ一言ノ之ニ及ヒタルモノナク「マツカロツク」氏セリヨ「氏等ノ諸學者ハ財政學ハ經濟學ノ應用ナリト説ケリ」アダムスミス氏其起頭ニ於テ既ニ財政學ニ與フルニ相當ノ地位ヲ以テセルニ拘ハラヌ後學ノ徒漫ニ之ヲシテ埋没セシメ遂ニ今日ニ至ルモ尙英國及ヒ英學派ニ於テ財政學ノ攻究ヲ力メス恰モ獨逸ノ占有物ノ如クナリシハ豈流俗ノ至ナラスヤ

爾後十九世紀ノ後ニ至リ漸ク經濟學中ニ久シク埋没セシ財政學ヲシテ其地位ヲ回復セシムルニ至レリ是レ蓋シ國家其他ノ團體ニ從事セル實際家カ財政ノ事ヲ研究スルノ必要ニ迫ラレタルト財政學上ノ問題ハ公共的ノモノナルトニ因リテナリ始メテ國家ノ財政ヲ國民ニ公ケニシタルハ「フレデリック」天王ニシテ實ニ千七百七十五年ノ事ナリキ當時大王ハ之ヲ國民ニ公ニシタルニ因リテ大ニ世間ノ非難ヲ受ケタリシナリ然ルニ今日ハ全ク其勢ヲ異ニシ國家自ラ進

## 經濟學

法學博士 金 井 延 講述  
校 友 竹 內 喜 一 郎 編輯

### 總論

#### 第一章 慾望

吾人人類ノ此世ニ在ルヤ衣食住ノ必要ニ關スルモノヲ第一トシテ其他ニ尙ホ種々ノ不足ヲ感ス此不足ノ感覺ト之ヲ滿サント欲スル願意トヲ包括シテ之ヲ慾望ト云フ此慾望ヲ滿タスニアラサレハ人類ノ生存繁榮ハ得テ期ス可カラス故ニ人類ハ日常最モ多ク其意ヲ慾望ノ満足ニ注カサルハナク之カ爲メ經營慘

慾望ヲザルナシ是レ即チ人類ノ經濟ナリ而シテ社會國家ヲ組成スル民衆カ一定ノ秩序ニ從ヒ規則正シキ方法ニ依リ其慾望ヲ滿サントシテ經營スル總テノ活動ヲ包括シテ之ヲ國民經濟又ハ社會經濟ト稱ス。然レ慾望ハ社會全體ノ慾望トハ私人ノ慾望トハ別アリト雖モ兩者ノ區域ハ其ニ豫メ定マリタル先天的、自然的ノ限界アルニアラスシテ社會ノ進化ニ隨伴シ絶ヘス變遷シ擴張スルモノトス。

現時ノ社會ニ於ケル人類ノ慾望ハ其種類、分量共ニ頗ル多ク之ヲ悉ク枚舉スルハ到底不能ニ屬スルカ如シ故ニ唯一定ノ觀察點ヲ基本トシ以テ慾望ヲ分類スルノ方法ヲ採ルニ若カサルナリ。

獨逸ノ經濟學者ロッセル氏ハ慾望カ人生生活ニ於ケル關係ノ緩急ヲ基本トシテ之ヲ三種ニ區別セリ曰ク自然的慾望、社會的慾望、奢侈的慾望是ナリ此ノ區別ハ頗ル便利ナル區別ナリ所謂自然的慾望トハ人類ノ生存上必要欠ク可カラサル衣食住ニ關スルモノニシテ之ヲ充タサハルトキハ生命健康ヲ損ス地位的慾望トハ人々ノ地位ニ相應スルモノニシテ吾人カ自他ニ對シ社會

上ノ地位、品格ヲ保持スルニ必要ナルモノナリ之ヲ充タサハルトキハ人々其社會ニ對スル面目ヲ失ハサルヲ得サルニ至ル可レ此種ノ慾望ハ人々ノ社會上ニ有スル地位高キニ從ヒ益高尚ナルヲ常トス奢侈的慾望トハ吾人ノ身分ニ相應セサル分限以上ニ屬スルモノナリ故ニ此種ノ慾望ハ固ヨリ生命健康ヲ保ツニ必要ナルニアラス又社會上ノ地位ニ毫末ノ關係ナレ是レ唯タ一ニ自己ノ支出ヲシテ遙カニ其收入ニ超過セシムルノ結果ヲ奏スルニ過キサレ而已故ニ此種ノ慾望ハ之ヲ満足セシメサルヲ可トス之ヲ満足セシムレハ小ニシテハ一身一家ノ破産ヲ來シ大ニシテハ一國ノ衰亡ヲ招クニ至ル羅馬ノ末路實ニ善ク之ヲ證ス。

然リ而シテ奢侈的慾望ト地位的慾望トハ往々之ヲ明白ニ區別シ難シ如何ナル點マデカ地位的慾望ニシテ如何ナル點ヨリ以上ヲ奢侈的慾望ト爲スカハ極メテ曖昧ナリ甲者ニ對シテ社會上ノ地位品格ヲ保護スルニ必要ナル慾望モ乙者ニ對シテハ奢侈的慾望ナルコトアルハ何人ト雖モ之ヲ認ムルコト難カラサルナリ尙ホ一步ヲ進メテ之ヲ推究センカ自然的慾望ト地位的慾望トノ間ニモ亦

絕對的ニ判別シ難キ場合多シ何トナレハ或人ニ適當ナル地位の慾望モ此人ヨリモ尙ホ高貴ノ人ニ取リテハ未タ以テ其地位、品格ヲ保持スルニ十分ナリト爲スコト能ハス如此コトハ後者ニ取リテハ實ニ衣食住ト同シク必要欠ク可カラサル自然の慾望タルコト往々之アレハナリ自然の慾望ノ人ニ依リテ異ナルコトアルハ更ニ怪ムニ足ラサルナリ故ニ右第一種ノ慾望ト第二種ノ慾望トノ區別ハ實ニ第二種ト第三種ノ區別ト同様ニ一見尙ニ明白ナルカ如シト雖モ之ヲ推究スルニ從ヒ其實頗ル錯綜セルモノタルヲ知ラム經濟學ハ實ニ此種ノ因問難題ヲ發端ニ提ケサル可カラズ嗚呼難哉

以上論スル所ニヨリテ之ヲ推考スルトキハ彼ノ贅<sup>○</sup>澤<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>節<sup>○</sup>儉<sup>○</sup>トノ區別ノ如キモ所謂贅澤行爲ノ中ニハ地位の慾望ヲ満足スルコトモ往々包含サルレハ絕對的ニ之ヲ解說スルハ甚タ難ク此二者其ニ人ニ依リ階級ニ依リ大ニ異ナルモノト謂ハサル可カラス從テ贅澤品ト必要品トノ區別ノ如キモ決シテ絕對的ニ存立スルモノト爲スヲ得ス例ヘハ酒ト煙草ハ通常贅澤品ト名ケラレ各國政府ハ概テ之ニ重稅ヲ課スルヲ一般ノ原則トス是レ實ニ事ノ大體ニ於テ不可ナルコト

# 附 錄

左ノ一篇ハ校長梅博士カ過日本校ニ於テ講演セラレタルモノニ係ル唯筆記粗漏ニシテ講演ノ趣旨ヲ盡サ、ルモノアルヘシト雖モ是レ固ヨリ筆者ノ罪ニシテ博士ノ知ル所ニアラサルナリ讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

執筆者 小田 幹 次 郎 識

## 占有ノ訴

新民法ノ認ムル占有ノ訴ヲ分チテ三種トス

第一 占有保持ノ訴

第二 占有保全ノ訴

第三 占有回收ノ訴

是ナリ

第一 占有保持ノ訴 民法第百九十八條ニ於テ此訴ノ性質ヲ規定セリ曰ク占有者カ其占有ヲ妨害セラレタルトキハ占有保持ノ訴ニ依リ其妨害ヲ停止及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

ト即チ此種ノ訴ハ占有ニ對シ現ニ妨害ヲ受クル場合ニ之ヲ提起スヘキモノナ  
リ例ヘハ子カーノ家屋ヲ占有スルニ當リ暴力ニ訴ヘテ之ヲ奪取セントスル者  
アリトセハ子ハ此訴ヲ以テ其暴行ヲ止メシムルコトヲ得ヘシ尙其暴行ニ因リ  
テ家屋ヲ破壊シ若クハ子又ハ子ノ家族ニ負傷セシメタルトキハ此訴ヲ以テ同  
時ニ損害ノ賠償ヲモ請求スルコトヲ得ヘシ要スルニ妨害ノ停止ト損害ノ賠償  
ヲ併セテ請求スルノ訴ナリ

第二 占有保全ノ訴 此訴ハ民法第百九十九條ノ規定スル所ナリ曰ク

占有者ハ其占有ヲ妨害セラハハ處アルトキハ占有保全ノ訴ニ依リ其妨  
害ノ豫防又ハ損害賠償ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

ト一言ニシテ言ヘハ將來ノ妨害ヲ豫防スルタメノ訴ナリ例ヘハ子ノ占有セル  
土地ノ隣地ニ於テ極メテ高層ニシテ而モ不堅牢ナル建物ヲ建築セントスル者  
アリトセンニ子ハ他日ノ危險ヲ慮リ之ヲ堅牢ナル建築ニ改メシムルカ若クハ  
相當ノ豫防工事ヲ施シムルノ必要アリ占有保全ノ訴ハ實ニ斯ノ如キ場合ニ  
提起スルモノナリ然レトモ子ハ必スシモ其豫防ヲ請求スルコトヲ欲セス事ロ

他日損害ヲ生スル場合ノタメ豫メ損害賠償ノ擔保ヲ請求シ置カント欲スルコ  
トアルヘシ是ヲ以テ法律ハ妨害豫防ノ請求ニ代ヘテ損害賠償ノ擔保ヲ請求ス  
ルコトヲ許セリ而シテ此擔保ハ後日賠償ヲ爲サシムルニ當リ義務者カ之ヲ肯  
セサルカ若クハ無資方ナル場合ニ於テ甚タ其必要ヲ見ルヘク保證人ニテモ可ナ  
リ質ニテモ可ナリ抵當ニテモ可ナリ若シ之ニ關シテ爭アルトキハ裁判所ノ判  
定ニ一任スヘシ要スルニ此訴ハ將來ノ妨害ニ對シ豫防ヲ請求スルカ又ハ損害  
賠償ノ擔保ヲ請求スルカ二者ノ一ヲ選ヒテ之ヲ提起スヘキモノナリ

第三 占有回收ノ訴 民法第二百條第一項ニ曰ク

占有者ハ其占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リ其物ノ返還及  
ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

ト是レ占有回收ノ訴ヲ規定シタルモノニシテ此訴ハ現在ノ妨害ニモアラス又  
將來ノ妨害ニモアラス既ニ過去ニ屬シタル妨害ニ對シテ起スヘキモノ即チ既  
ニ占有ヲ奪ハレタル後ニ提起スヘキ訴ナリトス是レ前二種ノモノト大ニ其性  
質ヲ異ニセル所ナリ今占有ヲ奪ハレタル者ハ先ツ其占有物ヲ取還スノ必要ヲ



リ而シテ占有ノ侵害ハ同時ニ損害ヲ生スルヲ常トス例ヘハ予ノ家屋ヲ侵害シ  
テ予ヲ退去セシメタル者アリトセンニ予ハ是レカタメニ新ナル家屋ヲ取得シ  
若クハ借用シテ之ニ移轉セサルヘカラス爲ニ多少ノ費用又ハ勞力ヲ要スル而  
已ナラス暴行ヲ受ケテ疾病創傷ヲ醸シタリトセハ更ニ醫藥ノ料ヲ要求セサル  
ヘカラス其他或ハ家具ヲ破損スルコトモアルヘク或ハ營業ヲ停止スルコトモ  
アルヘク其損害固ヨリ一ニシテ足ラス斯ノ如ク占有ノ侵害ト同時ニ許多ノ損  
害ヲ生スルヲ以テ占有回收ノ訴ハ占有物ノ返還ニ並セテ損害ノ賠償ヲ請求ス  
ラ目的トス

以上三種ノ訴ハ其區別甚タ明丁ニシテ現在。將來。及ヒ過去ノ三場合ヲ以テ之ヲ  
分テリ此明了ナル區別ハ實ニ新民法カ始メテ採用シタル所ニシテ至極學理ニ  
適合シタルモノトス泰西諸國ニ於テモ羅馬法以來ノ沿革ニ因リ約ソ三種ノ訴  
權ヲ認メタリト雖モ未タ斯ノ如ク明了ナル學理ノ區別ニ從ヒシモノアルヲ見  
ス例ヘハ占有保持ノ訴ノ如キモ時トシテハ過去ノ妨害ニ對シテモ尙之ヲ許ス  
コトアリ又將來ノ妨害ニ對シテモ我占有保全ノ訴ノ如キ一定ノ訴權ヲ認メ

ス羅馬法ニ於ケル占有保全ノ訴ニ類スルモノハ恰モ舊民法ニ於ケル新工告發  
訴權ニ近似シ其區域狹隘ニシテ廣ク將來ノ妨害ヲ豫防スルニ足ラザリシナリ  
右ノ如ク泰西諸國ニ於テハ既ニ二千年以來ノ沿革ヲ有スルニモ拘ハラズ今日  
ニ至ルマテ絶エテ進步ヲ爲シタルノ形跡ナク偶マ進步シタル學說ヲ見ルコト  
アルモ是レ亦一般ニ行ハレスシテ久シク舊套ヲ守レルノ觀アリ之ニ反シ我新  
民法ハ斯ノ如キ沿革上ノ缺典ヲ襲クノ必要ナク殊ニ苟モ新ニ法典ヲ定営スル  
以上ハ最モ真正ナル學理ト最モ實際ニ便宜ナル制度トヲ採用スルノ必要アル  
ヲ以テ學理ノ正鵠ニ依リ實際ノ便宜ニ鑑ミテ現在將來及ヒ過去ノ三場合ニ區  
別レ以テ占有保護ノ完全ヲ期セリ然リ而シテ此三種ノ訴ハ如何ナル人ニ對シ  
テ提起スルコトヲ得ルカ新民法ニ於テハ占有權ヲ以テ一ノ物權トセリ物權ハ  
何人ニモ對抗スルコトヲ得ルノ權利ナリ故ニ占有權ノ一タル占有ノ訴權モ亦  
何人ヲ問ハスシテ之ヲ對抗スルコトヲ得ルヲ以テ原則トス唯之レニ一二ノ制  
限アリ

其一 損害賠償ノ請求ハ元來物權ノ訴ニアラスシテ性質上債權ノ訴ナリ故ニ

損害ヲ加ヘタル者若クハ其承繼人ニ對スルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
其二 占有回收ノ訴ニ限リ善意ノ承繼人ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス例  
ヘハ甲ナル者アリテ予ノ占有セル家屋ヲ侵奪シタリトセンニ予カ甲ニ對シテ  
占有回收ノ訴ヲ起スコトヲ得ルハ言フ待タス然レトモ若シ甲ニシテ之ヲ乙ナ  
ル者ニ賣渡シ既ニ其引渡ヲ了リテ其家屋カ乙ノ占有ニ歸シタルトキハ予ハ乙  
ノ善意ナルト惡意ナルトニ因リ或ハ此訴ヲ起スコトヲ得ヘク或ハ之ヲ起スコ  
トヲ得サルナリ今乙ノ惡意ナル片即チ乙カ甲ノ侵奪ヲ知レルトキハ予ハ之ニ  
對シテ此訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ之ニ反シ乙カ其實ヲ知ラサ  
ルトキハ予ハ乙ニ對シテ此訴ヲ起スコトヲ得ス是レ占有ノ訴ナルモノ、本質  
ヨリ生スルノ結果ニシテ毫モ怪シムニ足ラス何トナレハ占有ノ訴ナルモノハ  
占有保護ノ方法ナリ占有ノ保護ハ占有ナル事實ヲ保護スルヲ以テ本旨トス詳  
言セハ占有ナル事實ヲ保護センカクメニ種々ナル權利ヲ附與スルニ過キズ然  
ルニ此場合ニ於テハ占有ハ既ニ侵奪者ノ承繼人ニ移轉シ原占有者ハ事實ニ於  
テ最早占有者ナリト言フコトヲ得ス此一點ヨリスルモ法律ハ原占有者ヲ保

### 本校校外生教授法ノ新機軸

實業ニ從事セルモノハ商法、經濟學并ニ財政學ノ研究ヲ要シ(第貳部)一般人士ハ民法及國際私  
法ノ研究ヲ望ムヘク民事訴訟法ノ如キハ司法官、辯護士等ノ職ニ就クニアラサレハ之ヲ學ブノ  
要ナシト雖モ素是私法ノ運用法ナルヲ以テ其所在民法ニ近シト云ハサルヘカラス(第一部)憲法  
行政法、刑法、刑事訴訟法ノ如キハ行政、司法ノ位地ニ在リテ始メテ其要ヲ感スヘク實業家又ハ  
一般國民トシテハ其必要掛ナカルヘシ然ルニ從來ノ校外生規則ハ學年ニ因リテ三部ニ分チ何人  
ニ向テモ法律學ノ全般ヲ教授セントセリ此事タルヤ繁多ナル一般人士ノ能ハサル所又實業家ノ  
急務トセサル所ナルヲ以テ浩瀚ナル講義錄ハ徒ニ机上ニ累々トシテ其弊ヤ遂ニ特種ノ必要アル  
部門ヲモ研究セサルニ至ル本校ノ新機軸トスル所ハ此必要ヲ充シ此弊ヲ防キ各特種ノ方面ニ向  
テ適當ノ部門ヲ教授シ若シ之ヲ合スレハ法律學ノ全般ニ融通スルヲ得セシメントスルニ在リ其  
學科及ヒ擔任講師左ノ如シ

第壹部

第一編 總則	自第一章至第六章	法科大學教授 法學博士 梅 隆次郎君
第二編 債權	自第七章至第十七章	法科大學教授 法律學士 小宮三保松君
第三編 債權	第十八章至第二十章	法科大學教授 法律學士 中山成太郎君
第四編 債權	第二十一章至第二十三章	法科大學教授 法律學士 加古貞太郎君
第五編 債權	第二十四章至第二十六章	法科大學教授 法律學士 富井政章君
第六編 債權	第二十七章至第二十九章	法科大學教授 法律學士 兩角 彦六君
第七編 債權	第三十章至第三十二章	法科大學教授 法律學士 掛下重次郎君
第八編 債權	第三十三章至第三十五章	法科大學教授 法律學士 寺 尾 亨君
第九編 債權	第三十六章至第三十八章	法科大學教授 法律學士 前田 孝階君
第十編 債權	第三十九章至第四十一章	法科大學教授 法律學士 遠藤 忠次君
第十一編 債權	第四十二章至第四十四章	法科大學教授 法律學士 兩角 彦六君
第十二編 債權	第四十五章至第四十七章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十三編 債權	第四十八章至第五十章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十四編 債權	第五十一章至第五十三章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十五編 債權	第五十四章至第五十六章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十六編 債權	第五十七章至第五十九章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十七編 債權	第六十章至第六十二章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十八編 債權	第六十三章至第六十五章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十九編 債權	第六十六章至第六十八章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十編 債權	第六十九章至第七十一章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十一編 債權	第七十二章至第七十四章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十二編 債權	第七十五章至第七十七章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十三編 債權	第七十八章至第八十章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十四編 債權	第八十一章至第八十三章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十五編 債權	第八十四章至第八十六章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十六編 債權	第八十七章至第八十九章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十七編 債權	第九十章至第九十二章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十八編 債權	第九十三章至第九十五章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十九編 債權	第九十六章至第九十八章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第三十編 債權	第九十九章至第一百章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君

第貳部 (商法ノ分類ハ破産ヲ除クノ外新商法ニ依リテ)

第一編 總則	自第一章至第六章	法科大學教授 法學博士 梅 隆次郎君
第二編 債權	自第七章至第十七章	法科大學教授 法律學士 小宮三保松君
第三編 債權	第十八章至第二十章	法科大學教授 法律學士 中山成太郎君
第四編 債權	第二十一章至第二十三章	法科大學教授 法律學士 加古貞太郎君
第五編 債權	第二十四章至第二十六章	法科大學教授 法律學士 富井政章君
第六編 債權	第二十七章至第二十九章	法科大學教授 法律學士 兩角 彦六君
第七編 債權	第三十章至第三十二章	法科大學教授 法律學士 掛下重次郎君
第八編 債權	第三十三章至第三十五章	法科大學教授 法律學士 寺 尾 亨君
第九編 債權	第三十六章至第三十八章	法科大學教授 法律學士 前田 孝階君
第十編 債權	第三十九章至第四十一章	法科大學教授 法律學士 遠藤 忠次君
第十一編 債權	第四十二章至第四十四章	法科大學教授 法律學士 兩角 彦六君
第十二編 債權	第四十五章至第四十七章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十三編 債權	第四十八章至第五十章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十四編 債權	第五十一章至第五十三章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十五編 債權	第五十四章至第五十六章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十六編 債權	第五十七章至第五十九章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十七編 債權	第六十章至第六十二章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十八編 債權	第六十三章至第六十五章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第十九編 債權	第六十六章至第六十八章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十編 債權	第六十九章至第七十一章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十一編 債權	第七十二章至第七十四章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十二編 債權	第七十五章至第七十七章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十三編 債權	第七十八章至第八十章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十四編 債權	第八十一章至第八十三章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十五編 債權	第八十四章至第八十六章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十六編 債權	第八十七章至第八十九章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十七編 債權	第九十章至第九十二章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十八編 債權	第九十三章至第九十五章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第二十九編 債權	第九十六章至第九十八章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君
第三十編 債權	第九十九章至第一百章	法科大學教授 法律學士 櫻 積 陳重君

第參部

財政學	法科大學教授 法學博士 梅 隆次郎君
經濟學	法科大學教授 法律學士 小宮三保松君
法	法科大學教授 法律學士 中山成太郎君
刑(總論)	法科大學教授 法律學士 加古貞太郎君
刑(各論)	法科大學教授 法律學士 富井政章君
刑事訴訟法	法科大學教授 法律學士 兩角 彦六君
憲法	法科大學教授 法律學士 掛下重次郎君
行政法	法科大學教授 法律學士 寺 尾 亨君
國際公法	法科大學教授 法律學士 前田 孝階君

附言 商法ハ新商法ニ據リテ開講シ刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法ノ講義ニ於テハ改正ノ要旨ヲ斟酌宣明スヘシ、法例ハ國際私法其他ノ法律ヲ說述スル間ニ自カラ學得スヘキモノナルヲ以テ特ニ一講座ヲ開クノ要ナク法學通論ハ別ニ豫約ノ方法ヲ以テ出版シ從來トハ大ニ其模形ヲ革メ更ニ其完全ヲ期ス

### 本校ノ特色

所在 本校ハ總町區富士見町ニ在リ高燥ニシテ閑靜ナリ若シ夫レ四隣ニ車馬軋リ弦歌酒食ノ間ニ身ヲ置カハ便ハ即チ便ナリト雖モ學業鍛鍊ノ道ニアラサルナリ本校ハ尙校認下宿舍ヲ設ケテ學生ノ品行ト下宿業者ノ弊風トヲ監督矯正ス

講師 本校ハ富井、梅南博士其他大學教授諸氏并ニ當世ノ大家ノ創設ニ係ルモノニシテ最モ閱歷ニ富メリ故ニ其盡瘁セラル、コト亦尋常ニアラス見ヨ我國三大博士ノ嚆矢ニ接スルコトヲ得ルハ本校ト東京帝國大學ヲ除クノ外果シテ何レニ在ル乎

卒業生 本校ハ卒業生ノ品行方正ニシテ學力優秀ナルヲ以テ稱セラル判檢事、辯護士、高等文官試験ニ於テ口述試験ニ及第セサルモノナキハ是其結果ナリ

### 校長、校務顧問其他擔任講師ノ肖像

校長梅博士、顧問富井博士及穗積博士其他擔任講師ノ肖像ハ漸次講義録ノ中ニ掲クヘシ是登校ノ便ヲ缺ク諸氏ヲレテ其身教場ニ臨ミ恩師ニ親炙スルノ想アラシメンカ爲ナリ決シテ坊間雜誌ノ感ヲ以テ視ル勿レ

### 本校ノ出版物

本校ハ大ニ出版部ヲ擴張シ諸種ノ付屬法令及ヒ其註釋書ヲ出版シテ時急ヲ充スヘシ

本校ハ大審院其他ノ判決例ヲ民刑二部ニ分チ又行政判決例ヲモ出版シ各其要旨ヲ摘録シ以テ正道ノ便ヲ圖ルヘシ

本校ハ校名ヲ以テ責任ヲ負フ所ノ良著書ヲ出版シ讀者ヲシテ萬綠叢中紅一點ノ想アラシメン

### 本校錄事

本校講談會ノ景況 先月二十八日午後一時ヨリ本校講堂ニ於テ例會ヲ開キ法學士有賀長文氏ノ「工業ト其金融機關」法學博士穗積陳重氏ノ「祖先教ト法律」法學博士梅謙次郎氏ノ「失火

者ノ責任ヲ法學博士富井政章氏ノ「選舉名簿ノ確定力」等ノ講演アリ傍聴人無慮二千名毫ニ近來ノ盛會ナリシ當日ノ講演筆記ハ順次本講義録ノ附録トシテ讀者ニ頒ツヘシ

校長及ヒ校務顧問歡迎會 新校長梅博士及ヒ新任校務顧問富井博士ヲ歡迎セン爲先月二十九日午後二時ヨリ本校樓上ニ於テ宴會ヲ催シ校友生徒等相會スル者三百餘名佐々木校友會副會長先ツ開會ノ趣意ヲ述ヘ次ア梅校長並ニ富井顧問ノ答辭アリ終ニ吉田校務委員長校務ノ報告ヲ爲シ席ヲ革メラ立食ノ宴ニ移リ一同城壁ヲ撤シ胸襟ヲ開キテ談笑湧クカ如ク席上信閑雄四郎氏其他二三氏ノ演說アリ黃昏ニ至リテ漸ク散會セリ

次號目次 次號ニハ新商法ノ講義及ヒ附録トシテ法學士有賀長文君ノ本校講議會ニ於ケル「工業ト其金融機關」ト題セル講演ノ筆記ヲ掲ケン

### 校外生規則摘要

- 一 本校ノ講義録ハ科目ノ種類(需要者ノ方面ヲ標準トシテ分類ス)ニヨリテ三部ニ分チタリ  
第一部 民法、民事訴訟法、國際私法、裁判所構成法、法理學  
第二部 商法、經濟學、財政學、憲法、行政法、國際公法  
第三部 刑法、刑事訴訟法、民法、行政法、國際公法
- 二 各部ハ毎月二回發行シ滿一ケ年ヲ以テ完結シ若シ講義録ハ三十五、三十ノ日ヲ定テ發行ス第壹部ハ毎月五、廿ノ日第貳部ハ十、廿五ノ日第參部ハ十五、三十ノ日ヲ定テ發行ス
- 三 校外生ニハ學費ニヨリ證書ヲ付與ス(郵券貳錢ヲ要ス)又本校講議會討論會ヲ傍聴スルノ權アリ
- 四 講義録三部ヲ講了セタルモノハ校外生修業證書ヲ授與ス又此證書ヲ有スルモノハ試驗入學金三十錢月謝金各一部ニ付キ三十五錢、全參部ヲ通スルモノハ堂園トス、月謝金不納六ケ月ニ及フトキハ退學ト看做ス故ニ講義録ノ再送ヲ望ムモノハ更ニ入學ノ手續ヲ爲ス
- 五 納金ハ必ス飯田町郵便局宛ニ振出シ受取人ハ和佛法律學校會計掛トスヘシ此事項誤ルキハ事務上甚ダシキ差支ヲ生スルヲ以テ送金受領ノ手續ヲ爲サハルコトアルヘシ
- 六 校外生ハ講義録中ノ疑問ニ付質疑スルコトヲ得質疑ニ付テハ詳細ハ校則ニ因リテ了知ス
- 七 校外生ハ講義録中ノ疑問ニ付質疑スルコトヲ得質疑ニ付テハ詳細ハ校則ニ因リテ了知ス
- 八 校外生ハ講義録中ノ疑問ニ付質疑スルコトヲ得質疑ニ付テハ詳細ハ校則ニ因リテ了知ス

### 校内生規則摘要

- 一 尋常中學若クハ之ト同等ナル學校ヲ卒業シ又ハ本校乙種ノ入學試驗ニ及第シテ本校ニ入學シタルモノハ徵兵猶豫ノ特例アリ
- 二 同盟法律學校生徒ハ本校ニ無試驗轉校スルコトヲ得
- 三 入學金貳圓月謝金壹圓五拾錢トス
- 四 本校卒業生ハ判檢事試驗ヲ受クルノ資格特權ヲ有ス

# 注意

●校外生諸君ニシテ本校へ發送セラル  
各自氏名ノ上ニ

## 第何部校外生

(第一部校外生ノ如シ)ト明記セラル、ニアラサレ  
ハ執務上其煩ニ堪ヘサルノミナラス時ニ或ハ遅  
延、錯誤等ノ恐ナキヲ保セス故ニ必ス其明記ノ  
勢ヲ吝ム勿レ

●爲替ニテ送金ノ節ハ棉渡局ヲ飯田町受取  
人宿所氏名(送金人ハ此處ニ受取人ノ寄)

法律學校會計係ト記入セラル

シ若シ右爲替券ニ誤記、塗抹シタル時ハ振出局  
ニ就キ訂正ノ證明ヲ得テ送附セラル可シ

●校外生月謝金(前金)ノ切レタル時ハ其都度講義  
録ノ封皮ニ

朱印ヲ押捺シテ發送ス可キ  
ヲ以テ朱印押捺セラレタル諸君ハ躊躇ナク送金  
セラル可シ

司法省和佛法律學校會計係

指定

明治三十二年二月九日印刷

明治三十二年二月十日發行

東京市半込區榮來町三番地

編輯兼 上野政雄

發行者 東京市芝區四ノ久保町舟町十一番地

印刷者 金子鐵五郎

印刷所 東京市芝區四ノ久保町舟町十一番地

金子清版所

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話本局一二七四)

所在(東京市麴町區富士見  
町六丁目十六番地)

明治廿二年十二月九日內務省認可